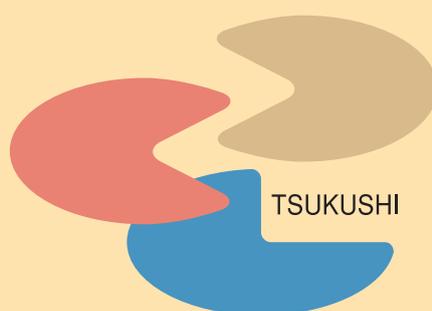


# 医療法人つくし会 年報

令和元年度  
(2019 年度)



南 国 病 院

訪問看護ステーションおおそね

## 目 次

理事長ご挨拶 中澤宏之 .....	1
-------------------	---

### 臨 床

外来部門 .....	3
地域連携・医療相談室 .....	6
病棟部門 .....	8
精神科作業療法室 .....	13
薬剤課 .....	14
医療安全対策室 .....	16
MRSA 保菌率の推移 .....	18
検体別検出細菌数 .....	19
褥瘡患者数の推移 .....	21
栄養課 .....	25
在宅医療支援センター .....	28
通所リハビリテーション室	
精神科デイケア室	
訪問看護ステーションおおそね	

### 教 育

実習受け入れ状況 .....	33
院内学術研修会 .....	38
院内看護部研修会 .....	40
看護部チーム発表会 .....	42

### 業 績

地域オープンセミナー .....	46
業績 .....	47
編集後記 .....	49

## ご挨拶



**医療法人つくし会 理事長  
南国病院 院長 中澤宏之**

例年の如く、大変遅くなってしまいましたが、令和元年度医療法人つくし会年報が完成しましたので、一言ご挨拶を申し上げます。令和元年度は当法人にとって大きな節目の年となりました。

平成31年4月には当院が開院50周年を迎えることができました。昭和44年4月1日精神科、神経科を標榜する80床の病院として開院して以来、162床への増床、脳神経内科、内科の開設、精神科デイケア、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションの開設を経て、神経難病医療を主とする慢性期医療、幅広い精神科医療、かかりつけ医機能と消化器内科の専門性を持つ内科医療を提供する、地域に根差した病院として、微力ながら役割を果たしてきました。50周年は一代で成し遂げられるものではなく、二世に亘り地域の皆様、関係機関の皆様、職員の皆さんからの温かいご指導、ご支援なくしては達成できなかったものであり、心より感謝を申し上げます。平成31年4月13日(土)には記念講演会、記念式典・祝賀会を

とり行うことができました。ご講演頂いた高知大学医学部脳神経内科学教室古谷博和教授、神経精神科学教室数井裕光教授、記念式典・祝賀会にてご祝辞を賜りました尾崎高知県知事、平山南国市長、岡林高知県医師会長には、改めてお礼を申し上げます。

また、私事になりますが、はからずも令和元年春の褒章に際しまして、藍綬褒章受章の榮譽に浴することができました。高知県医師会、土佐長岡郡医師会での役員としての活動が長くなり、南国病院での診療を含め、地域医療に係るこれまでの仕事を認めて頂き、岡林高知県医師会長が推薦して下さいましたが、医師会を始め関係団体の皆様、病院職員の皆様と共に受章した褒章であり、感謝を申し上げるとともにこれに恥じぬよう精進を続けて参ります。

令和元年10月28日から11月2日には、開院50周年における勤続40年以上の職員とともに、全日本病院協会第43回ハワイ研修旅行に参加しました。日米の医療の違いについての講義を受けましたが、医療費の高さ、保険制度の違い、医師以外のメディカルスタッフの地位の高さが印象的でした。標準的な医療以外は民間保険や自費で行うため必然的に医療費の自己負担が高くなり、長期療養は原則医療保険適応外となります。改めて日本がいかに素晴らしい国民皆保険制度を維持しているか、すべての日本国民が当たり前に低い自己負担額であらゆる医療を受けられるか、医師として保険診療ができることがいかに幸せなのかが実感できました。

令和元年10月19日(土)には「かかりつけ医として、南国病院ができること」とのテーマで、玉元精神科部長、速瀬副院長を講師とし

た地域オープンセミナーを開催し、地域住民の方々を中心に 83 名の参加を頂きました。「意外と多い精神科でお役に立てること」、「それでいいのかあなたの食生活」と題し、地域の皆様に分かり易い、役立つ内容であったと思います。これからも当院の診療機能を分かり易く伝える場として当セミナーを継続していきます。

全世界に大きな衝撃と試練を与えているコロナ禍の中で、現在は大きなイベントが軒並み中止や延期となっていますが、令和元年度の節目の各行事が滞りなく開催できたのは本当に幸運であったと思います。こうした大きな環境変化の中でも、しっかりと経営状態を維持、強化し地域医療や職員のキャリア形成に貢献できるよう、当法人として更に努力を重ねて参ります。

令和元年度の当法人の活動をまとめた年報が完成しましたので、日頃お世話になっている皆様にお届けいたします。皆様との連携、協力により厳しい環境変化、医療情勢に適応し地域に貢献できるよう、職員一同努力してまいりますので今後ともご指導、ご鞭撻をよろしく願います。

令和 3 年 5 月 8 日



# 臨床

## 外来部門

### 1) 年間外来患者数の推移

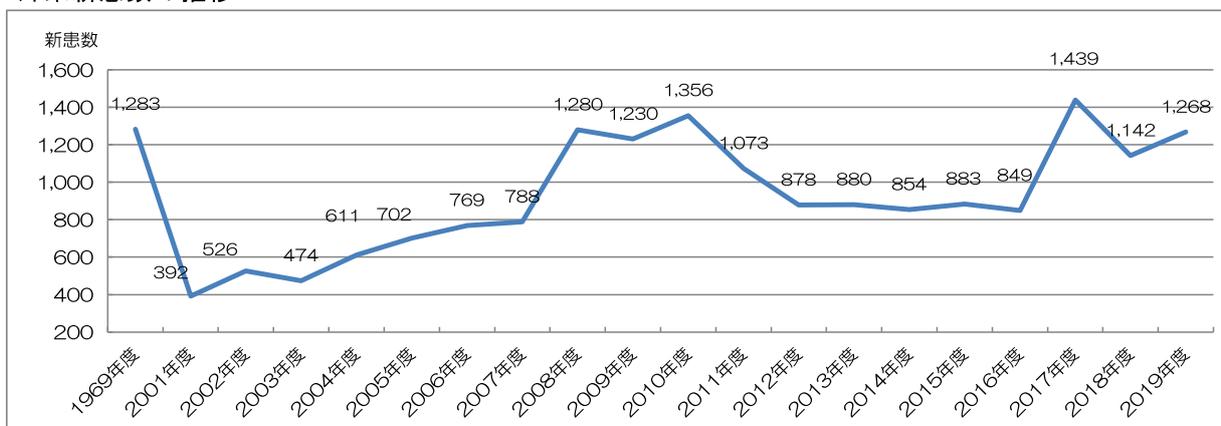
新患数（実数）と外来患者総数

（ ）内は、月平均患者数

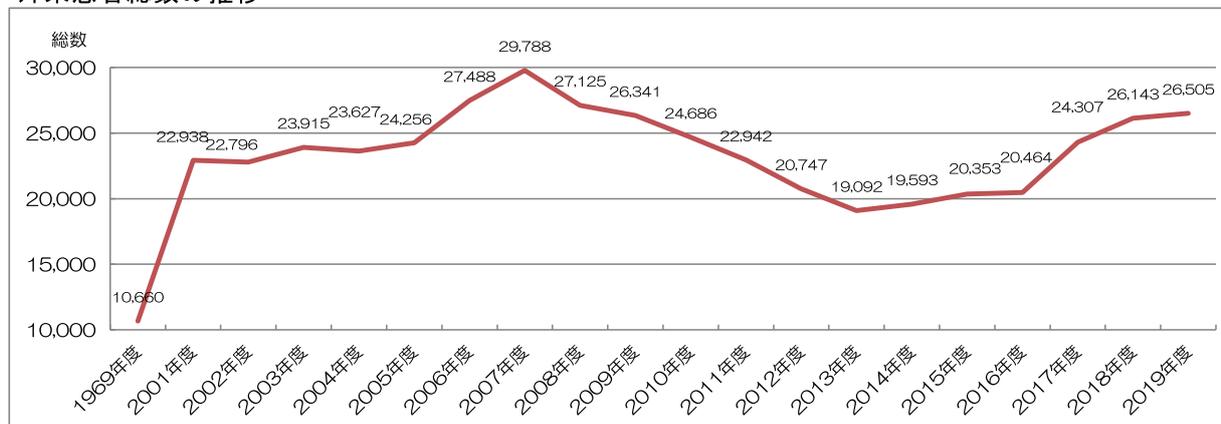
年度		1969年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
患者数		S44年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
年間	新患数	1,283 (106.9)	392 (32.7)	526 (43.8)	474 (39.5)	611 (50.9)	702 (58.5)	769 (64.1)	788 (65.7)	1,280 (106.7)	1,230 (102.5)
	患者数 総数	10,660 (888.2)	22,938 (1911.5)	22,796 (1899.7)	23,915 (1992.9)	23,627 (1968.9)	24,256 (2021.3)	27,488 (2290.7)	29,788 (2482.3)	27,125 (2260.4)	26,341 (2195.1)

年度		2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
患者数		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
年間	新患数	1,356 (113.0)	1,073 (89.4)	878 (73.2)	880 (73.3)	854 (71.2)	883 (73.6)	849 (70.8)	1,439 (119.9)	1,142 (95.2)	1,268 (105.7)
	患者数 総数	24,686 (2057.2)	22,942 (1911.8)	20,747 (1728.9)	19,092 (1591.0)	19,593 (1632.8)	20,353 (1696.1)	20,464 (1705.3)	24,307 (2025.6)	26,143 (2178.6)	26,505 (2208.8)

### 外来新患数の推移



### 外来患者総数の推移

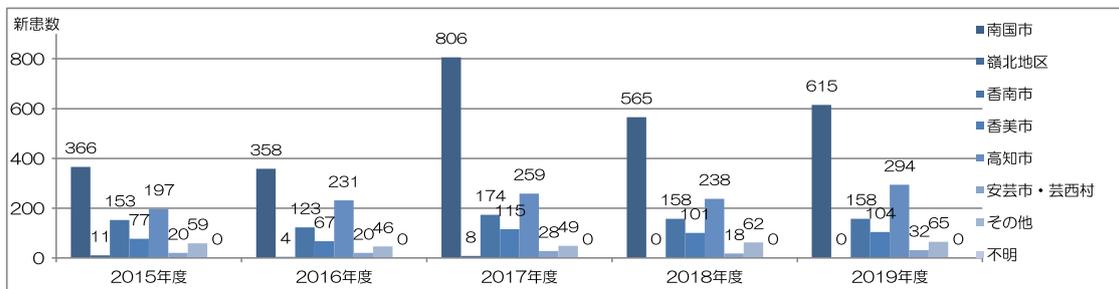


## 2) 診療科・疾患群別外来患者数（新患）の推移

診療科・疾患群	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
<b>脳神経内科</b>					
脳血管障害	17	17	6	12	12
筋萎縮性側索硬化症	6	6	0	5	5
パーキンソン病関連疾患	22	21	20	23	24
多系統萎縮症	5	3	3	4	3
脊髄小脳変性症	2	5	1	3	2
その他の神経変性疾患	6	3	8	15	17
アルツハイマー病	62	48	52	44	43
血管性認知症	6	4	5	2	2
その他の認知症	3	5	5	2	7
免疫関連中枢神経疾患	2	3	0	0	0
末梢神経疾患	5	1	0	3	5
筋疾患	4	7	3	1	1
神経感染症、脳症	1	2	1	0	0
てんかん	2	5	3	1	4
中毒性神経疾患	0	0	0	0	0
内科疾患、代謝性疾患に伴う神経障害	3	2	2	4	5
その他	71	45	70	62	58
小 計	217	177	179	181	188
<b>精神科</b>					
統合失調症	8	10	7	11	24
躁うつ病	5	10	7	3	11
てんかんと近縁疾患	0	1	0	2	2
非定型精神病	0	0	0	0	0
神経症（心因反応）、うつ病、うつ状態	135	123	116	129	154
アルコール関連精神障害	7	3	6	3	5
認知症、脳器質性精神障害	31	35	31	39	81
知的障害	18	5	25	24	23
その他	24	45	26	39	44
小 計	228	232	218	250	344
<b>消化器内科</b>					
上部消化管疾患（食道・胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍など）	14	22	36	23	21
下部消化管疾患（大腸ポリープ・大腸癌・痔核など）	29	11	13	13	10
肝臓疾患・胆膵疾患	3	1	15	5	14
高血圧	7	6	363	18	39
糖尿病	2	0	38	10	11
脂質異常症	2	2	25	7	7
外科的疾患（腰痛症・頸肩腕症候群・外傷・褥瘡など）	23	24	12	31	41
呼吸器疾患・循環器疾患・代謝異常	114	124	174	226	208
その他	244	250	366	378	385
小 計	438	440	1,042	711	736
合 計	883	849	1,439	1,142	1,268

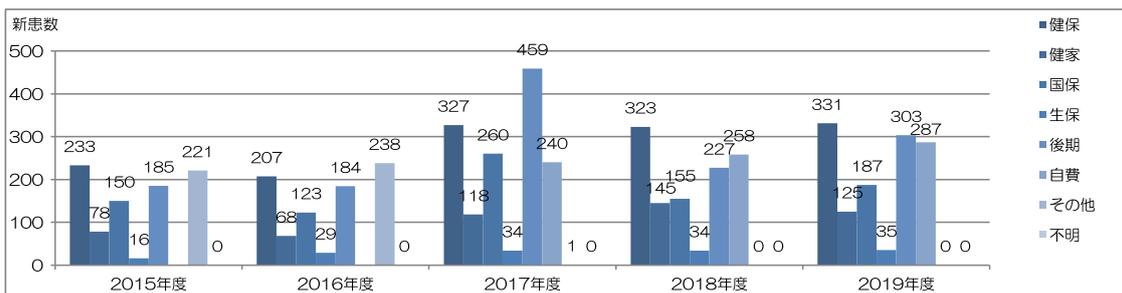
### 3) 居住地別外来患者数（新患）の推移

居住地	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
南国市	366 41.4%	358 42.2%	806 56.0%	565 49.5%	615 48.5%
嶺北地区	11 1.2%	4 0.5%	8 0.6%	0 0.0%	0 0.0%
香南市	153 17.3%	123 14.5%	174 12.1%	158 13.8%	158 12.5%
香美市	77 8.7%	67 7.9%	115 8.0%	101 8.8%	104 8.2%
高知市	197 22.3%	231 27.2%	259 18.0%	238 20.8%	294 23.2%
安芸市・芸西村	20 2.3%	20 2.4%	28 1.9%	18 1.6%	32 2.5%
その他	59 6.7%	46 5.4%	49 3.4%	62 5.4%	65 5.1%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	883	849	1,439	1,142	1,268



### 4) 保険種別外来患者数（新患）の推移

保険	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
健保(含、共済)	233 26.4%	207 24.4%	327 22.7%	323 28.3%	331 26.1%
健家	78 8.8%	68 8.0%	118 8.2%	145 12.7%	125 9.9%
国保	150 17.0%	123 14.5%	260 18.1%	155 13.6%	187 14.7%
生保	16 1.8%	29 3.4%	34 2.4%	34 3.0%	35 2.8%
後期	185 21.0%	184 21.7%	459 31.9%	227 19.9%	303 23.9%
自費			240 16.7%	258 22.6%	287 22.6%
その他	221 25.0%	238 28.0%	1 0.1%	0 0.0%	0 0.0%
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	883	849	1,439	1,142	1,268



## 地域連携・医療相談室

2019年度

業務分類	外来：関わった患者実数 5065 名					病棟：関わった患者実数 4440 名					9505
	面接	電話	文書	代行	小計	面接	電話	文書	代行	小計	合計
受診相談・援助	108	461	52	0	621	27	135	22	0	184	805
入院(転院)相談・援助	126	354	30	0	510	100	152	29	0	281	791
医療保護入院	0	3	4	0	7	137	107	287	0	531	538
任意入院(継続含)	0	1	0	0	1	54	3	60	0	117	118
退院(転院)相談・援助	1	5	2	0	8	327	782	68	0	1177	1185
訪問(退院前含)	0	0	0	0	0	55	38	21	0	114	114
療養上の問題調整	107	388	43	0	538	249	485	39	0	773	1311
経済問題調整(生保含)	23	108	50	0	181	148	159	29	9	345	526
権利擁護	4	6	2	0	12	23	21	3	0	47	59
障害年金相談・援助	113	207	148	0	468	45	42	35	0	122	590
就労問題相談・援助	39	90	13	0	142	9	10	3	0	22	164
住宅問題相談・援助	3	14	0	0	17	112	85	10	0	207	224
施設入所相談・援助	11	41	2	0	54	308	599	100	0	1007	1061
家族問題調整	20	28	0	0	48	61	75	2	0	138	186
日常生活援助	9	20	2	0	31	65	49	5	1	120	151
心理・情緒的援助	93	61	2	0	156	368	63	1	0	432	588
介護保険関連業務	69	311	600	0	980	180	409	174	7	770	1750
総合支援(福祉サービス)	12	93	93	0	198	59	85	29	0	173	371
自立支援医療	381	452	622	0	1455	42	32	28	0	102	1557
医療系サービス調整	31	161	185	0	377	59	84	18	0	161	538
難病関連業務	115	167	268	0	550	123	191	248	0	562	1112
各種手帳相談・援助	92	167	136	0	395	39	51	21	0	111	506
情報処理	119	519	91	0	729	260	449	107	0	816	1545
認知症初期集中支援チーム会	12	11	20	1	44	1	2	0	0	3	47
ケース会議(院内外)	2	1	2	0	5	469	40	113	0	622	627
ケース会議(退院前)	0	1	0	0	1	61	150	14	0	225	226
各種会議等	1	0	0	0	1	27	1	81	1	110	111
計	1491	3670	2367	1	7529	3408	4299	1547	18	9272	16801

## 2019年度 紹介患者件数

他院からの紹介件数	541
-----------	-----

医療機関名(基幹病院)	件数
高知大学医学部附属病院	84
高知医療センター	23
高知赤十字病院	16
社会医療法人近森会 近森病院	45
計	168

種 類	件数
病院(上記4病院除く)	149
診療所等	224
計	373

居住地域	件数	構成比
南国市	242	44.7%
高知市	109	20.1%
香南市	85	15.7%
香美市	58	10.7%
安芸市	16	3.0%
室戸市	12	2.2%
土佐市	1	0.2%
須崎市	0	0.0%
四万十市	0	0.0%
宿毛市	0	0.0%
土佐清水市	0	0.0%
安芸郡	4	0.7%
長岡郡	6	1.1%
土佐郡	1	0.2%
吾川郡	1	0.2%
高岡郡	5	0.9%
幡多郡	0	0.0%
他県	1	0.2%
不明	0	0.0%
計	541	

当院からの紹介件数	315
-----------	-----

医療機関名(基幹病院)	件数
高知大学医学部附属病院	47
高知医療センター	18
高知赤十字病院	12
社会医療法人近森会 近森病院	17
計	94

種 類	件数
病院(上記4病院除く)	104
診療所等	117
計	221

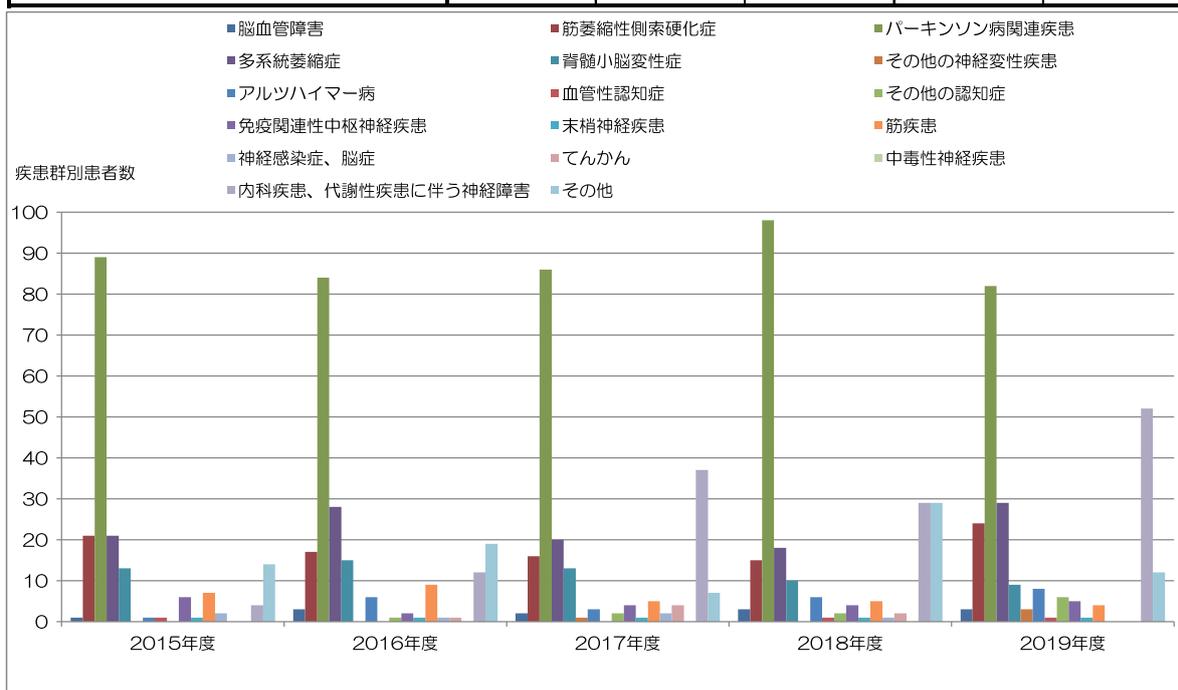
居住地域	件数	構成比
南国市	172	54.6%
高知市	51	16.2%
香南市	44	14.0%
香美市	27	8.6%
安芸市	7	2.2%
室戸市	5	1.6%
土佐市	0	0.0%
須崎市	0	0.0%
四万十市	0	0.0%
宿毛市	0	0.0%
土佐清水市	0	0.0%
安芸郡	6	1.9%
長岡郡	0	0.0%
土佐郡	0	0.0%
吾川郡	0	0.0%
高岡郡	2	0.6%
幡多郡	0	0.0%
他県	1	0.3%
不明	0	0.0%
計	315	

## 病棟部門

### 1) 特殊疾患病棟・医療療養病棟（2・3病棟）の推移

#### 疾患群別患者数

疾患群	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
脳血管障害	1	3	2	3	3
筋萎縮性側索硬化症	21	17	16	15	24
パーキンソン病関連疾患	89	84	86	98	82
多系統萎縮症	21	28	20	18	29
脊髄小脳変性症	13	15	13	10	9
その他の神経変性疾患	0	0	1	0	3
アルツハイマー病	1	6	3	6	8
血管性認知症	1	0	0	1	1
その他の認知症	0	1	2	2	6
免疫関連性中枢神経疾患	6	2	4	4	5
末梢神経疾患	1	1	1	1	1
筋疾患	7	9	5	5	4
神経感染症、脳症	2	1	2	1	0
てんかん	0	1	4	2	0
中毒性神経疾患	0	0	0	0	0
内科疾患、代謝性疾患に伴う神経障害	4	12	37	29	52
その他	14	19	7	29	12
合計	181	199	203	224	239

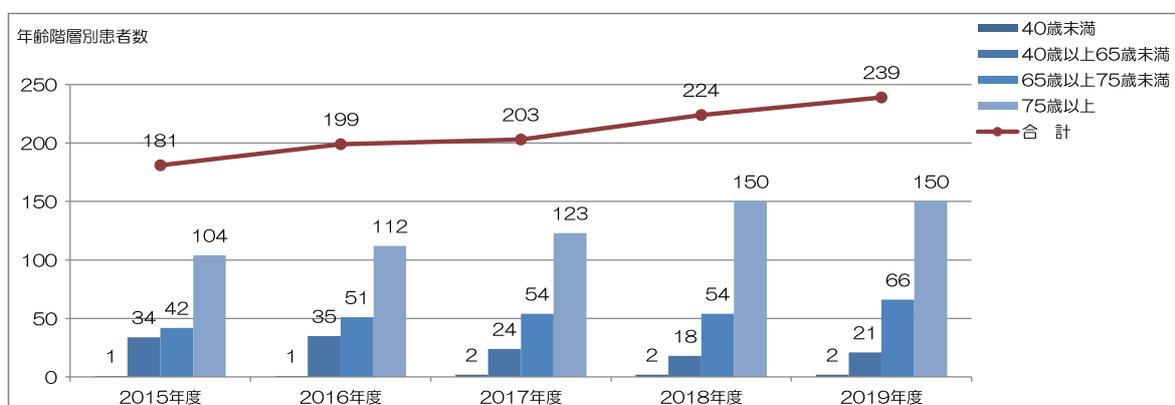


注：全102床

注：2014. 4. 1～2015. 6. 30は、2病棟・3病棟共に医療療養病棟

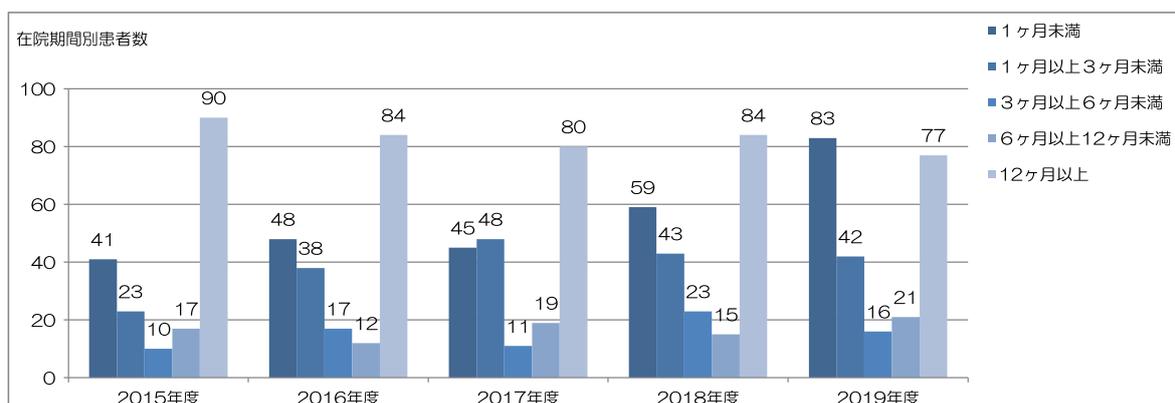
### 年齢階層別患者数

年 齢	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
40歳未満	1	1	2	2	2
40歳以上65歳未満	34	35	24	18	21
65歳以上75歳未満	42	51	54	54	66
75歳以上	104	112	123	150	150
合 計	181	199	203	224	239



### 在院期間別患者数

在 院 期 間	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
1ヶ月未満	41	48	45	59	83
1ヶ月以上3ヶ月未満	23	38	48	43	42
3ヶ月以上6ヶ月未満	10	17	11	23	16
6ヶ月以上12ヶ月未満	17	12	19	15	21
12ヶ月以上	90	84	80	84	77
合 計	181	199	203	224	239

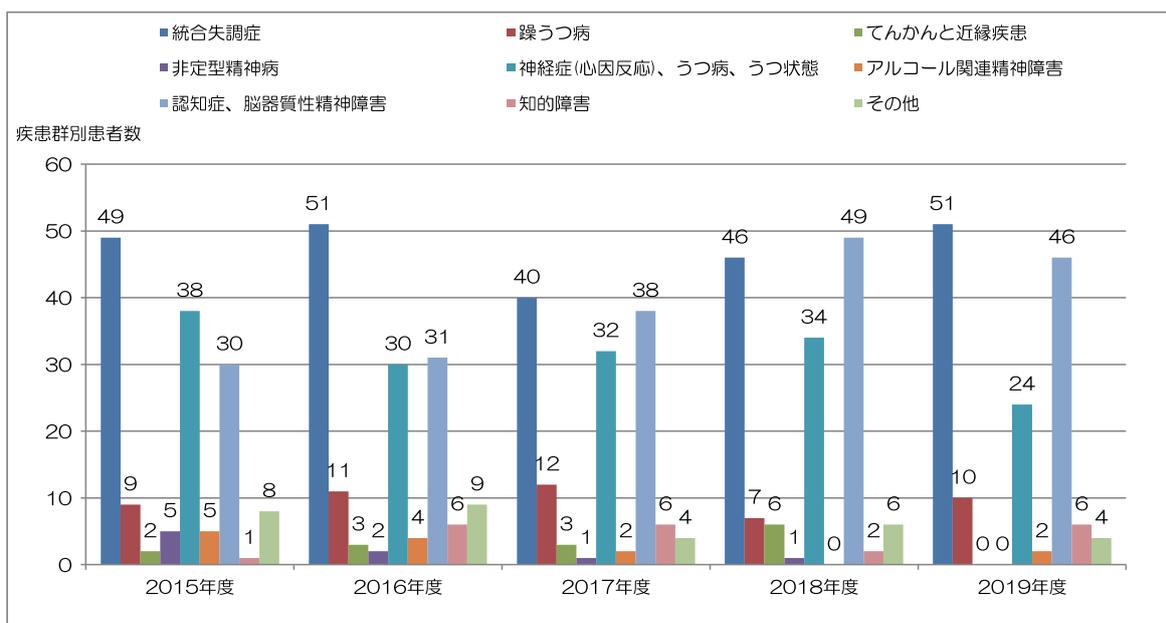


## 2) 精神科病棟（5病棟）の推移

疾患群別患者数

疾患群	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
統合失調症	49	51	40	46	51
躁うつ病	9	11	12	7	10
てんかんと近縁疾患	2	3	3	6	0
非定型精神病	5	2	1	1	0
神経症(心因反応)、うつ病、うつ状態	38	30	32	34	24
アルコール関連精神障害	5	4	2	0	2
認知症、脳器質性精神障害	30	31	38	49	46
知的障害	1	6	6	2	6
その他	8	9	4	6	4
合 計	147	147	138	151	143

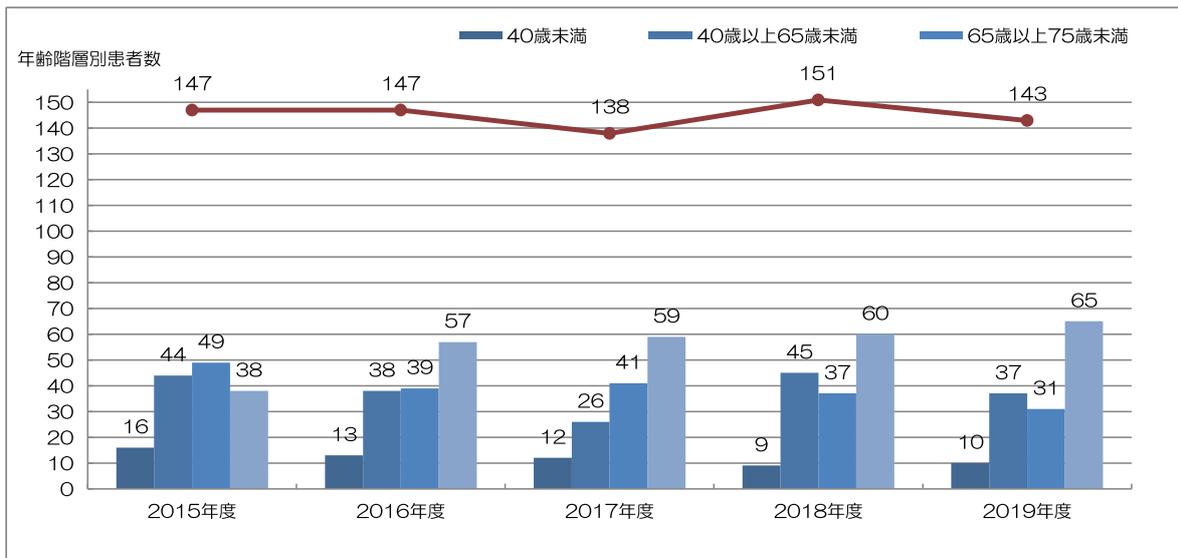
注: 全60床



年齢階層別患者数

年 齢	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
40歳未満	16 ( 8・ 8)	13 ( 7・ 6)	12 ( 5・ 7)	9 ( 1・ 8)	10 ( 6・ 4)
40歳以上65歳未満	44 (19・25)	38 (25・13)	26 (18・ 8)	45 (24・21)	37 (15・22)
65歳以上75歳未満	49 (16・33)	39 (13・26)	41 (14・27)	37 (12・25)	31 (17・14)
75歳以上	38 (15・23)	57 (21・36)	59 (19・40)	60 (23・37)	65 (21・44)
合 計	147 (58・89)	147 (66・81)	138 (56・82)	151 (60・91)	143 (59・84)

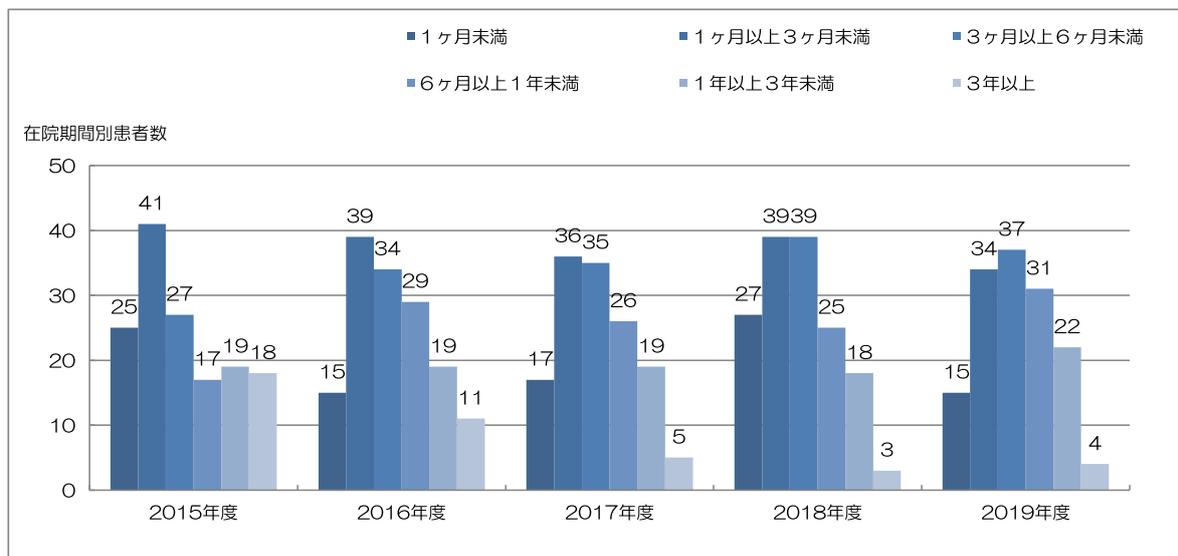
( ) 内は、男・女の数



在院期間別患者数

在院期間	2015年度 H27年度	2016年度 H28年度	2017年度 H29年度	2018年度 H30年度	2019年度 R1年度
1ヶ月未満	25 (13・12)	15 (10・5)	17 (14・3)	27 (15・12)	15 (4・11)
1ヶ月以上3ヶ月未満	41 (24・17)	39 (25・14)	36 (24・12)	39 (24・15)	34 (18・16)
3ヶ月以上6ヶ月未満	27 (18・9)	34 (22・12)	35 (20・15)	39 (24・15)	37 (20・17)
6ヶ月以上1年未満	17 (9・8)	29 (16・13)	26 (15・11)	25 (8・17)	31 (15・16)
1年以上3年未満	19 (11・8)	19 (8・11)	19 (9・10)	18 (11・7)	22 (11・11)
3年以上	18 (10・8)	11 (5・6)	5 (1・4)	3 (2・1)	4 (2・2)
合計	147 (85・62)	147 (86・61)	138 (83・55)	151 (84・67)	143 (70・73)

( )内は、任意・医療保護別、患者数



### 3) 精神科病棟（5病棟）入退院患者数の推移

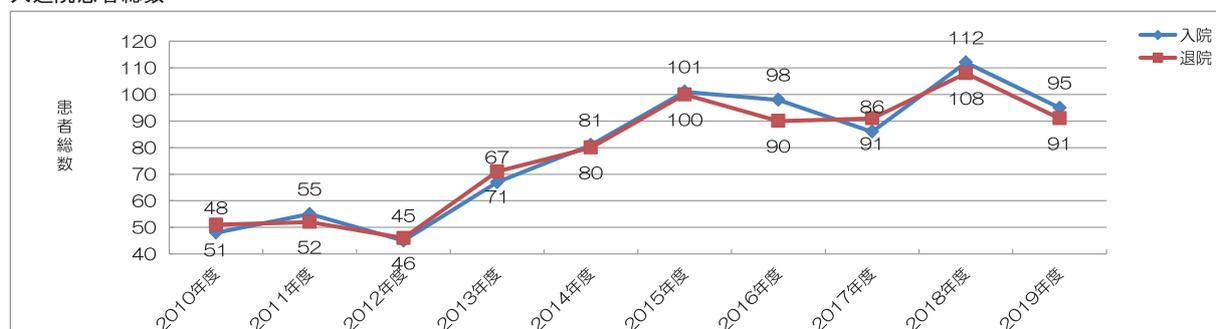
月別

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数	月平均
2010年度	4	4	8	7	2	7	4	3	4	1	2	2	48	4.0
H22年度	(2)	(5)	(6)	(3)	(6)	(6)	(4)	(5)	(5)	(2)	(2)	(5)	(51)	(4.3)
2011年度	3	10	3	6	6	4	5	2	4	2	3	7	55	4.6
H23年度	(4)	(4)	(2)	(6)	(9)	(3)	(2)	(2)	(8)	(2)	(1)	(9)	(52)	(4.3)
2012年度	7	2	2	2	7	3	2	2	1	3	5	9	45	3.8
H24年度	(5)	(2)	(5)	(2)	(5)	(1)	(3)	(3)	(5)	(6)	(7)	(2)	(46)	(3.8)
2013年度	8	4	8	6	9	3	2	6	8	6	3	4	67	5.6
H25年度	(6)	(7)	(4)	(11)	(5)	(5)	(6)	(5)	(4)	(8)	(4)	(6)	(71)	(5.9)
2014年度	7	10	3	6	5	9	10	4	5	9	5	8	81	6.8
H26年度	(9)	(7)	(7)	(4)	(7)	(3)	(10)	(8)	(6)	(7)	(7)	(5)	(80)	(6.7)
2015年度	9	5	10	9	6	9	7	8	12	11	7	8	101	8.4
H27年度	(7)	(12)	(4)	(5)	(14)	(9)	(9)	(6)	(10)	(7)	(9)	(8)	(100)	(8.3)
2016年度	7	8	8	11	6	3	6	8	11	8	16	6	98	8.2
H28年度	(11)	(12)	(3)	(6)	(7)	(6)	(9)	(6)	(5)	(14)	(6)	(5)	(90)	(7.5)
2017年度	7	7	11	8	8	2	8	7	7	7	6	8	86	7.2
H29年度	(9)	(13)	(5)	(9)	(5)	(7)	(9)	(7)	(4)	(5)	(7)	(11)	(91)	(7.6)
2018年度	9	10	14	11	9	7	12	5	9	8	11	7	112	9.3
H30年度	(8)	(12)	(14)	(7)	(13)	(11)	(4)	(5)	(9)	(7)	(10)	(8)	(108)	(9.0)
2019年度	8	5	11	9	5	11	11	6	7	7	6	9	95	7.9
R1年度	(2)	(8)	(5)	(9)	(9)	(9)	(10)	(9)	(11)	(5)	(7)	(7)	(91)	(7.6)

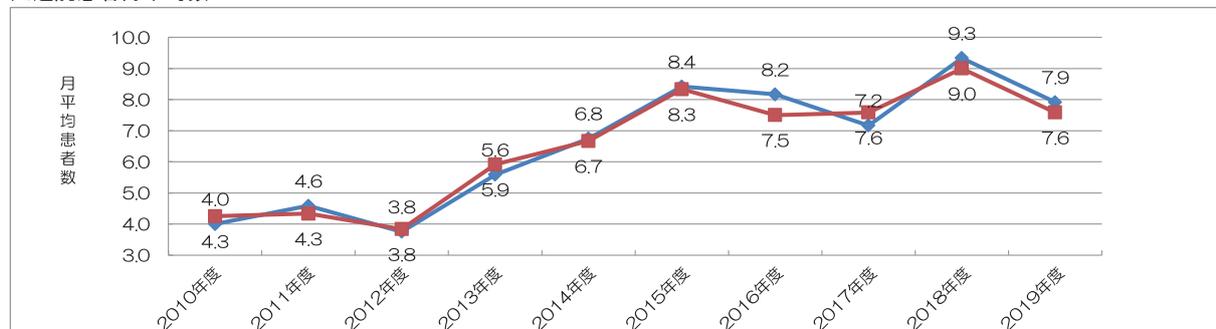
( ) 内は、退院患者数

年度別

入退院患者総数



入退院患者月平均数



## 精神科作業療法室

精神科作業療法室では統合失調症の他、うつ病や双極性感情障害などの気分障害、認知症の方などを対象に、さまざまな活動を通して心と身体のリハビリテーションを行っています。

入院患者さんの「生活行為」「休息」「仕事」の自立を中心に考え、入院当初より積極的に患者さんと関わりを持ち、患者さんの思いを聞き、それを多職種間で共有することで、入院から退院、そして地域の中で、患者さんがより良く過ごせるように日々関わっています。

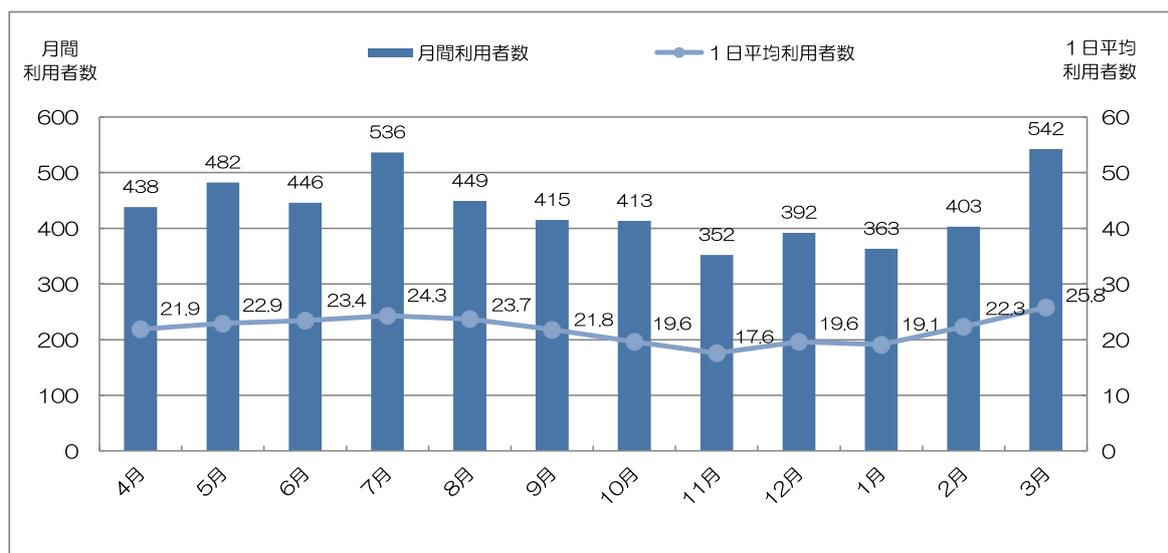
また、退院前訪問へ帯同し、在宅生活での過ごし方を患者さんと一緒に考え、身体的な疾患を併せた患者さんに対しては、家族やケアマネジャー、他施設職員とともに住宅改修や福祉用具の選定を行なうなど、専門的視点からサポートする取り組みをしています。

今後も、住み慣れた地域で安心して生活を継続させるために、多くの人と連携をとり、効果的な支援を行っていきたいと思います。

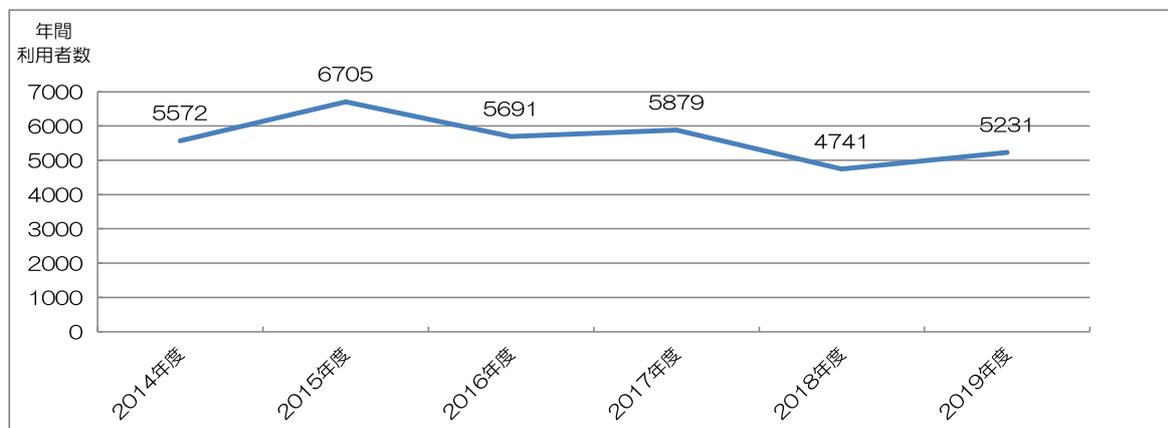
作業療法士 今城 恵理

### 2019年度月間利用者数・1日平均利用者数

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月間利用者数	438	482	446	536	449	415	413	352	392	363	403	542	5231
1日平均利用者数	21.9	22.9	23.4	24.3	23.7	21.8	19.6	17.6	19.6	19.1	22.3	25.8	



### 年間利用者数の推移



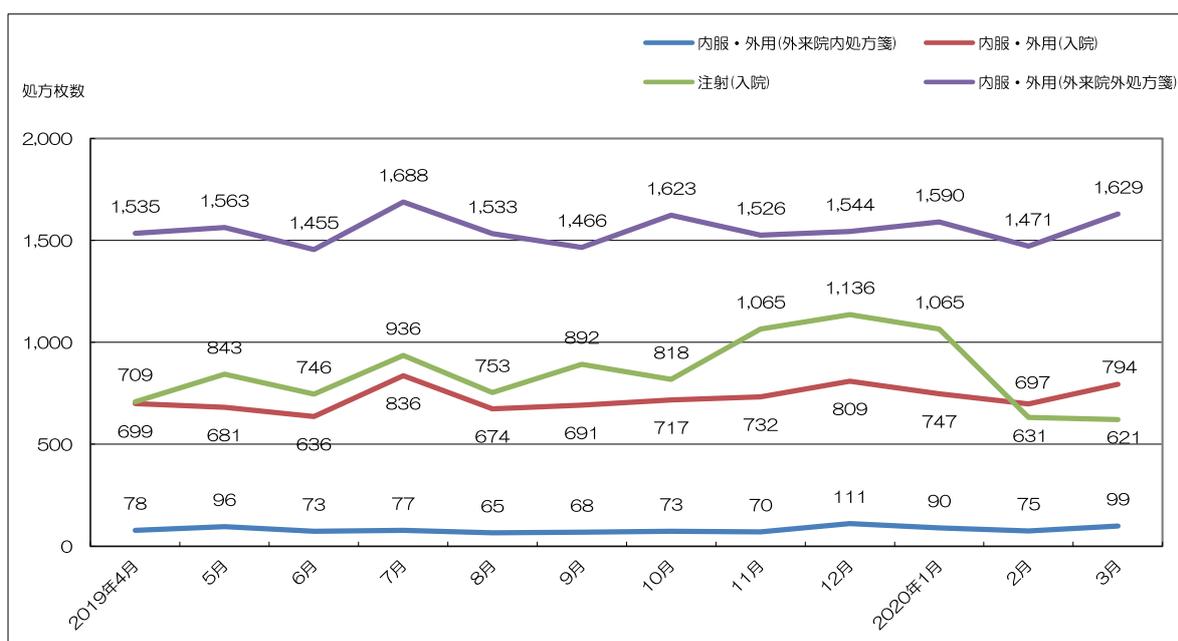
# 薬剤課

## 1 2019年度処方枚数

単位：枚数

2019年度	内服・外用							注射	
	外来 院内処方	昨対	院外処方	昨対	入院	昨対	合計	入院	昨対
2019年 4月	78	6.8%	1,535	353.7%	699	127.1%	2,312	709	89.4%
5月	96	126.3%	1,563	102.2%	681	107.2%	2,340	843	88.1%
6月	73	105.8%	1,455	94.5%	636	95.5%	2,164	746	82.6%
7月	77	101.3%	1,688	100.6%	836	122.8%	2,601	936	98.7%
8月	65	103.2%	1,533	101.2%	674	94.4%	2,272	753	85.5%
9月	68	103.0%	1,466	107.2%	691	121.9%	2,225	892	103.6%
10月	73	82.0%	1,623	96.4%	717	99.6%	2,413	818	71.9%
11月	70	84.3%	1,526	97.5%	732	109.4%	2,328	1,065	147.9%
12月	111	122.0%	1,544	100.8%	809	112.8%	2,464	1,136	130.0%
2020年 1月	90	54.5%	1,590	95.9%	747	109.2%	2,427	1,065	123.4%
2月	75	64.1%	1,471	105.4%	697	105.3%	2,243	631	82.8%
3月	99	117.9%	1,629	106.6%	794	127.7%	2,522	621	88.2%
合計	975	45.9%	18,623	106.9%	8,713	110.5%	28,311	10,215	98.2%

院外処方せん発行率 95.0%

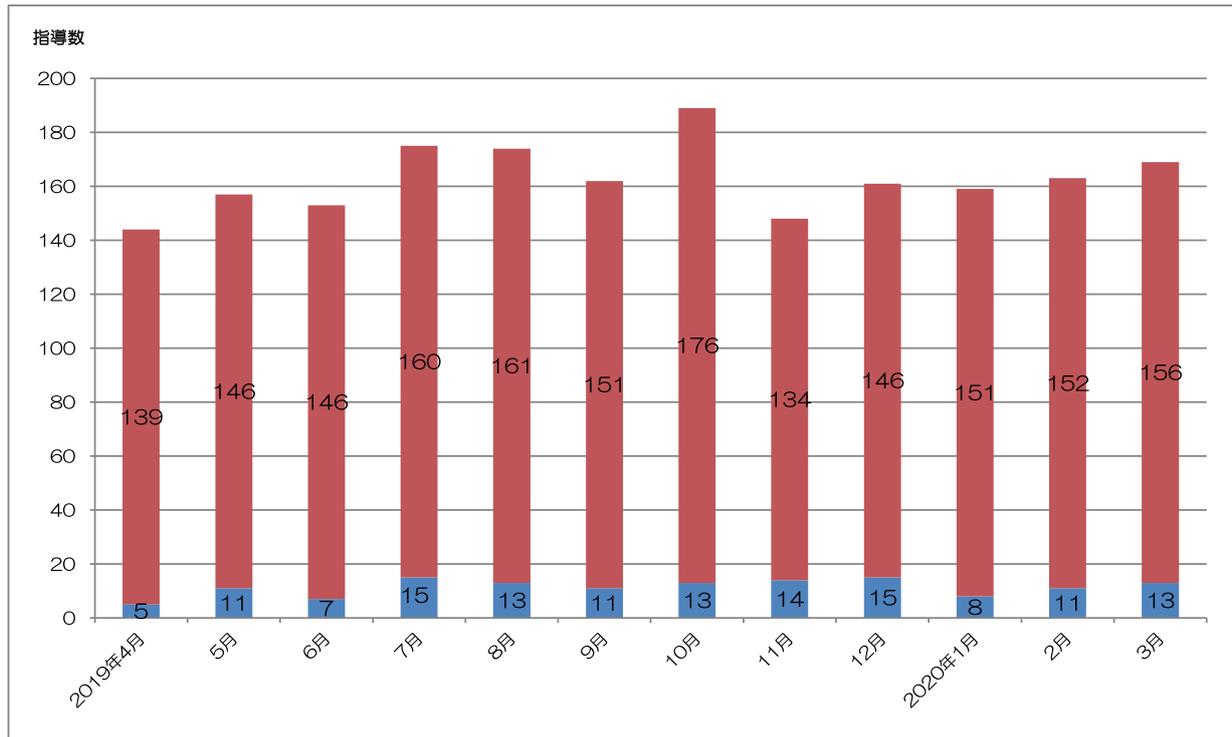


## 2 薬剤課の取り組み

### 1) 服薬指導の実施：病棟服薬指導（月間）

赤：入院患者服薬指導数(退院時除く) 1954件(前年度 1856件)

青：退院時服薬指導数 136件(前年度 127件)



### 2) その他年間実績

- ① 疑義照会 10件 (院外薬局薬剤師からの照会は含んでいない)
- ② 処方提案 18件 (薬剤師と医師との連携)
- ③ 副作用情報収集 15件 (病棟 1、薬剤課 13、外来 1)

# 医療安全対策室

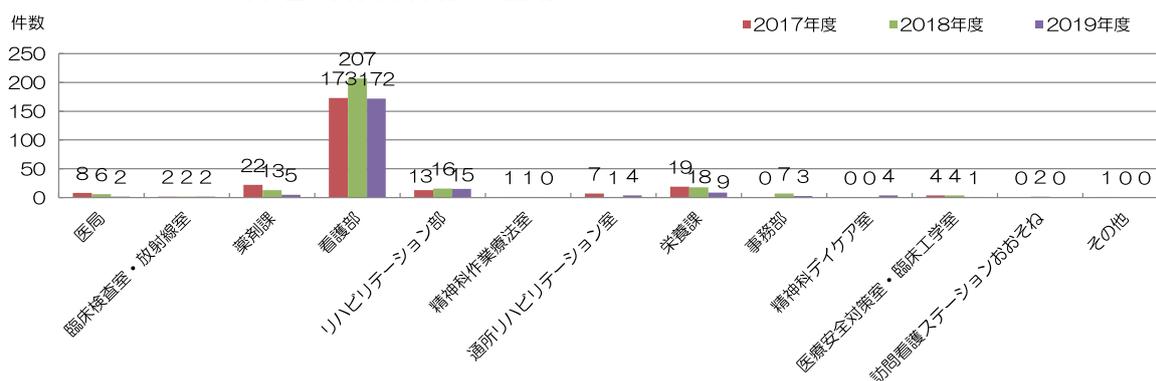
## 1) 2019年度インシデント報告件数

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
臨床検査室・放射線室	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
薬剤課	0	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
看護部	12	19	17	22	14	11	10	7	11	16	21	12	172
リハビリテーション部	3	2	0	2	0	1	1	3	0	1	0	2	15
精神科作業療法室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所リハビリテーション室	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
栄養課	0	3	1	1	0	1	0	1	0	2	0	0	9
事務部	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
精神科デイケア室	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	4
医療安全対策室・臨床工学室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
訪問看護ステーションおおそね	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	16	26	20	25	15	19	13	12	11	20	22	18	217

疑義照会	0	3	3	2	2	0	0	0	0	1	3	0	14
疑義照会含む合計	16	29	23	27	17	19	13	12	11	21	25	18	231

## 2) インシデント部署別報告件数の推移



## 3) 2019年度インシデントレベル別報告件数

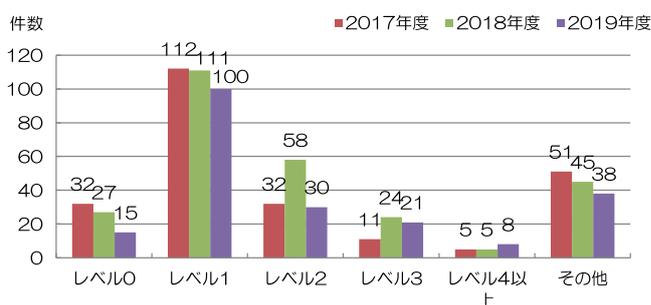
レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
レベル0	1	3	1	2	1	1	1	0	0	2	2	1	15
レベル1	8	14	9	15	8	5	6	7	9	11	3	5	100
レベル2	2	1	2	2	1	4	3	1	1	1	9	3	30
レベル3	1	3	1	2	2	4	0	0	0	3	4	1	21
レベル4	1	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	1	7
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
レベル7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	5	5	2	2	3	3	4	1	3	3	5	38
合計	15	26	19	25	15	19	13	12	11	20	21	16	212

(同一事例1)

(同一事例1)

(同一事例1) (同一事例2) (同一事例5)

## 4) インシデントレベル別報告件数の推移



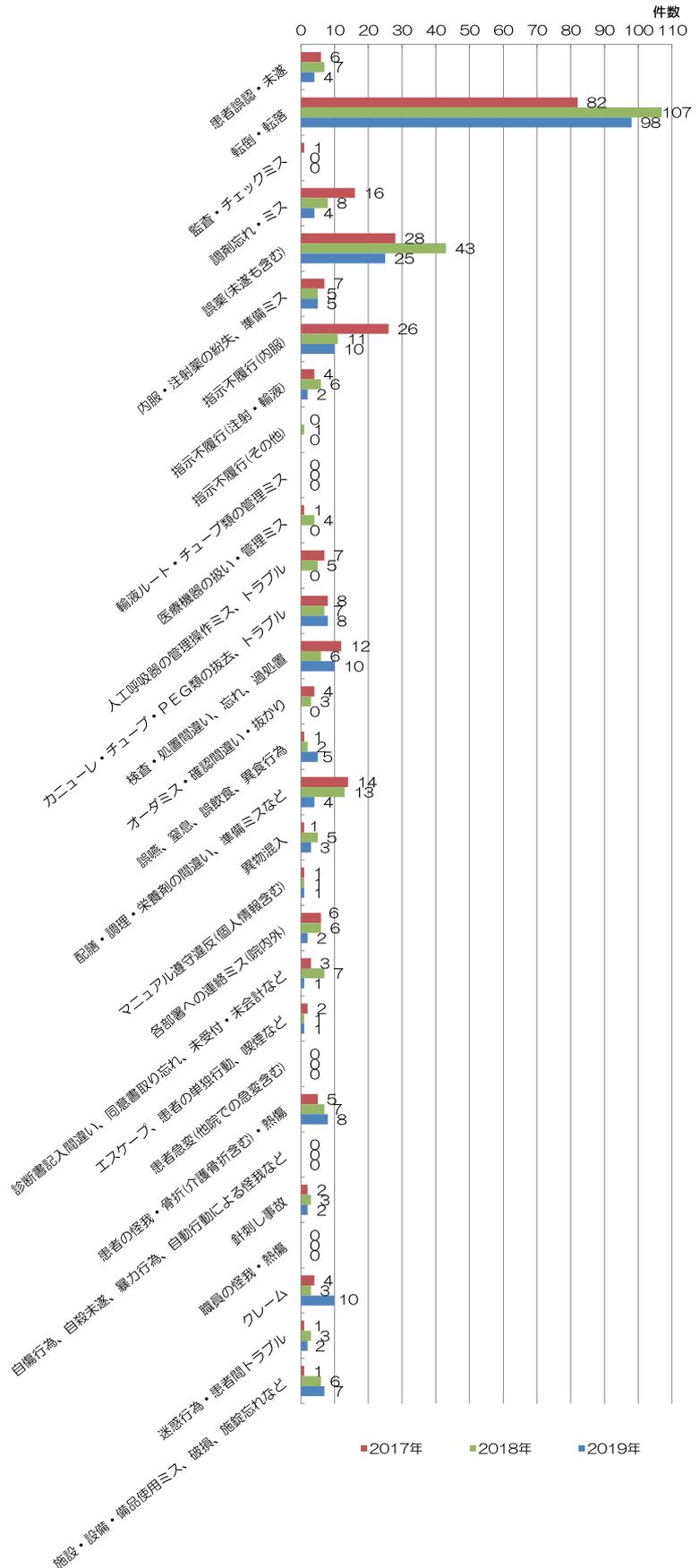
## 5) インシデント報告件数の推移



## 6) 2019年度ヒヤリハット内容

内 容	2019年度
患者誤認・未遂	4
転倒・転落	98
監査・チェックミス	0
調剤忘れ・ミス	4
誤薬(未遂も含む)	25
内服・注射薬の紛失、準備ミス	5
指示不履行(内服)	10
指示不履行(注射・輸液)	2
指示不履行(その他)	0
輸液ルート・チューブ類の管理ミス	0
医療機器の扱い・管理ミス	0
人工呼吸器の管理操作ミス、トラブル	0
カニューレ・チューブ・PEG類の 抜去、トラブル	8
検査・処置間違い、忘れ、過処置	10
オーダーミス・確認間違い・抜かり	0
誤嚥、窒息、誤飲食、異食行為	5
配膳・調理・栄養剤の間違い 準備ミスなど	4
異物混入	3
マニュアル遵守違反 (個人情報含む)	1
各部署への連絡ミス(院内外)	2
診断書記入間違い、同意書取り忘れ 未受付・未会計など	1
エスケープ、患者の単独行動 喫煙など	1
患者急変(他院での急変含む)	0
患者の怪我・骨折(介護骨折含む)・ 熱傷	8
自傷行為、自殺未遂、暴力行為 自動行動による怪我など	0
針刺し事故	2
職員の怪我・熱傷	0
クレーム	10
迷惑行為・患者間トラブル	2
施設・設備・備品使用ミス 破損、施設忘れなど	7
合 計	212

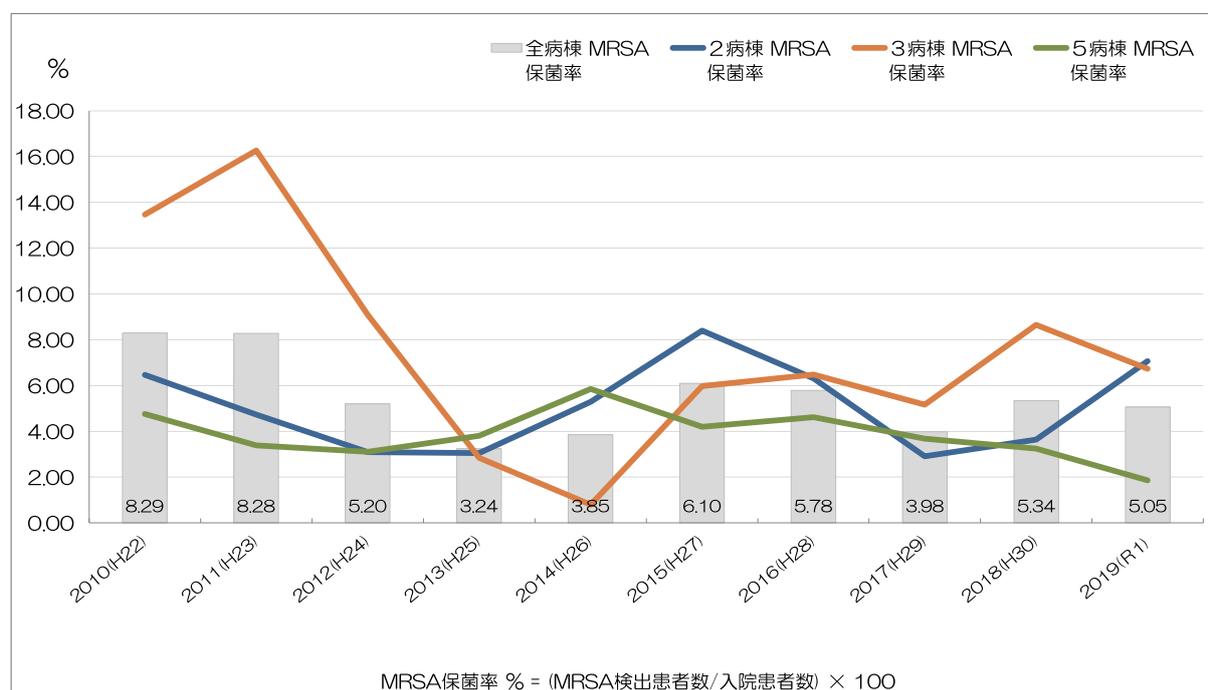
## 7) ヒヤリハット内容の推移



## MRSA保菌率の推移

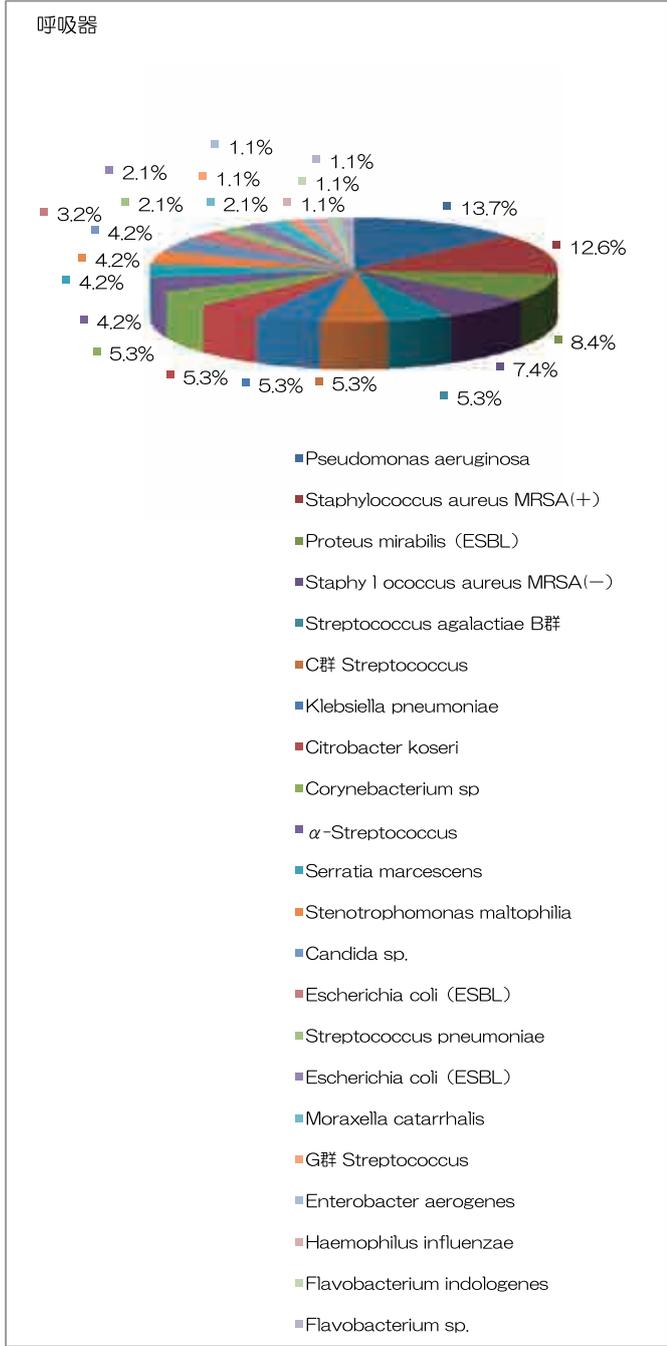
(委員会開催日当日保菌率：年平均)

年度	2病棟			3病棟			5病棟			全病棟		
	MRSA 検出患者 数	入院患者 数	MRSA 保菌率	MRSA 検出患者 数	入院患者 数	MRSA 保菌率	MRSA 検出患者 数	入院患者 数	MRSA 保菌率	MRSA 検出患者 数	総入院 患者数	MRSA 保菌率
2010(H22)	2.83	43.83	6.46	7.08	52.58	13.47	2.58	54.33	4.75	12.50	150.75	8.29
2011(H23)	2.08	44.08	4.73	8.58	52.75	16.27	1.83	54.08	3.39	12.50	150.92	8.28
2012(H24)	1.33	43.08	3.09	4.75	52.33	9.08	1.67	53.58	3.11	7.75	149.00	5.20
2013(H25)	1.33	43.75	3.05	1.50	52.83	2.84	2.00	52.58	3.80	4.83	149.17	3.24
2014(H26)	2.33	44.17	5.28	0.42	52.50	0.79	2.83	48.42	5.85	5.58	145.08	3.85
2015(H27)	3.67	43.67	8.40	3.08	51.58	5.98	2.08	49.67	4.19	8.83	144.92	6.10
2016(H28)	2.58	40.92	6.31	3.25	50.17	6.48	2.25	48.67	4.62	8.08	139.75	5.78
2017(H29)	1.25	43.00	2.91	2.67	51.58	5.17	1.83	49.92	3.67	5.75	144.50	3.98
2018(H30)	1.50	41.17	3.64	4.50	52.00	8.65	1.58	48.83	3.24	7.58	142.00	5.34
2019(R1)	3.00	42.42	7.07	3.42	50.75	6.73	1.00	53.67	1.86	7.42	146.83	5.05

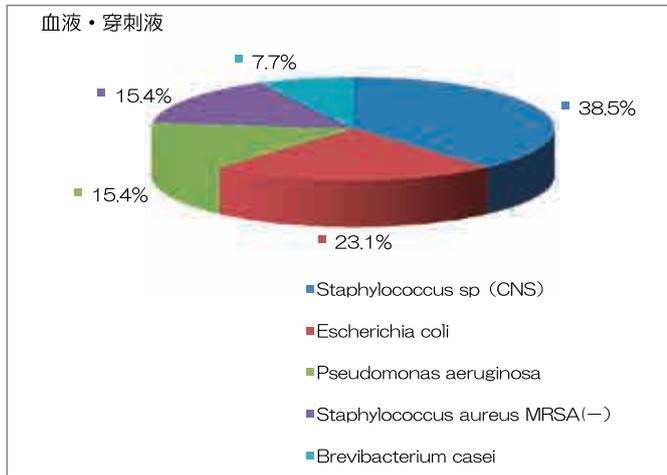


# 検体別検出細菌数

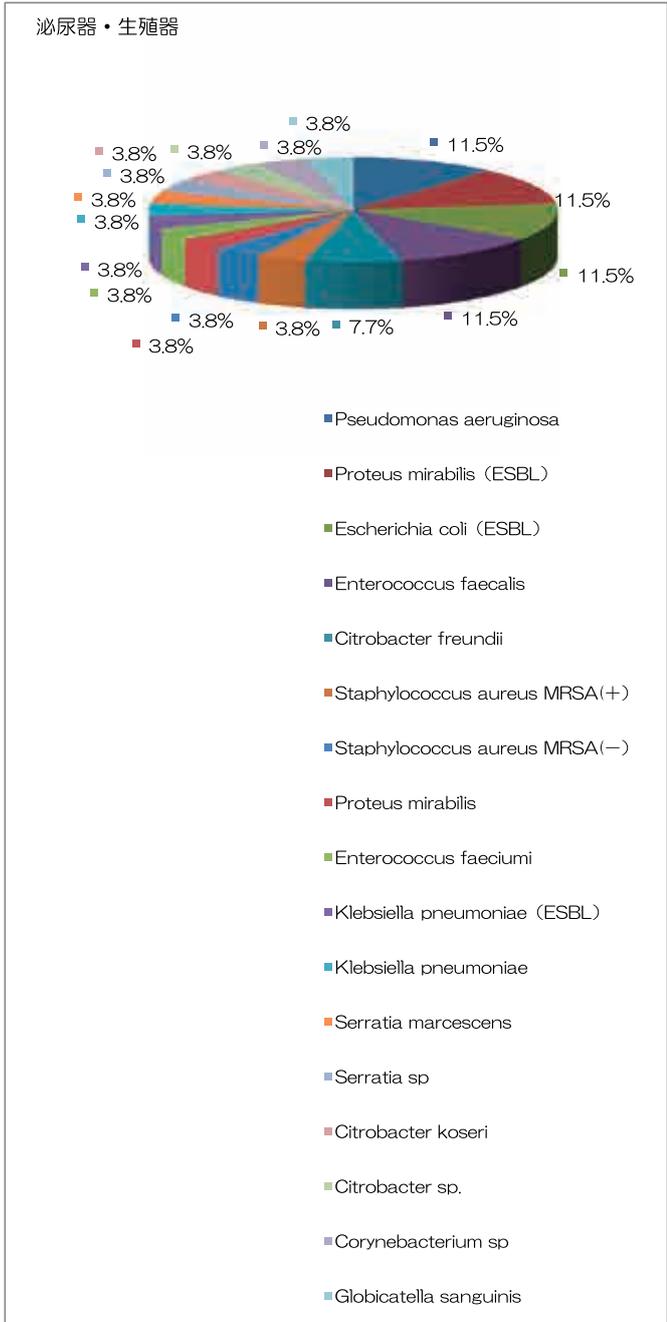
2019 呼吸器	%
1 Pseudomonas aeruginosa	13.7
2 Staphylococcus aureus MRSA(+)	12.6
3 Proteus mirabilis (ESBL)	8.4
4 Staphylococcus aureus MRSA(-)	7.4
5 Streptococcus agalactiae B群	5.3
6 C群 Streptococcus	5.3
7 Klebsiella pneumoniae	5.3
8 Citrobacter koseri	5.3
9 Corynebacterium sp	5.3
10 α-Streptococcus	4.2
11 Serratia marcescens	4.2
12 Stenotrophomonas maltophilia	4.2
13 Candida sp.	4.2
14 Escherichia coli (ESBL)	3.2
15 Streptococcus pneumoniae	2.1
16 Escherichia coli (ESBL)	2.1
17 Moraxella catarrhalis	2.1
18 G群 Streptococcus	1.1
19 Enterobacter aerogenes	1.1
20 Haemophilus influenzae	1.1
21 Flavobacterium indologenes	1.1
22 Flavobacterium sp.	1.1
合計	100.0



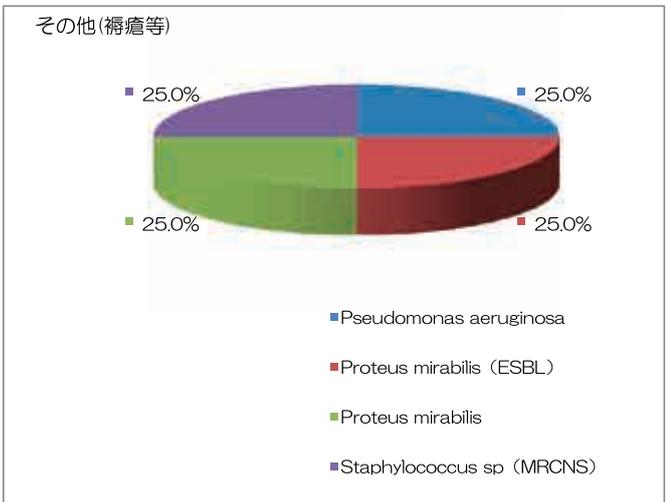
2019 血液・穿刺液	%
1 Staphylococcus sp (CNS)	38.5
2 Escherichia coli	23.1
3 Pseudomonas aeruginosa	15.4
4 Staphylococcus aureus MRSA(-)	15.4
5 Brevibacterium casei	7.7
合計	100.0



2019 泌尿器・生殖器	%
1 Pseudomonas aeruginosa	11.5
2 Proteus mirabilis (ESBL)	11.5
3 Escherichia coli (ESBL)	11.5
4 Enterococcus faecalis	11.5
5 Citrobacter freundii	7.7
6 Staphylococcus aureus MRSA(+)	3.8
7 Staphylococcus aureus MRSA(-)	3.8
8 Proteus mirabilis	3.8
9 Enterococcus faeciumi	3.8
10 Klebsiella pneumoniae (ESBL)	3.8
11 Klebsiella pneumoniae	3.8
12 Serratia marcescens	3.8
13 Serratia sp	3.8
14 Citrobacter koseri	3.8
15 Citrobacter sp.	3.8
16 Corynebacterium sp	3.8
17 Globicatella sanguinis	3.8
合計	100.0



2019 その他（褥瘡等）	%
1 Pseudomonas aeruginosa	25.0
2 Proteus mirabilis (ESBL)	25.0
3 Proteus mirabilis	25.0
4 Staphylococcus sp (MRCNS)	25.0
合計	100.0



## 褥瘡患者数の推移 褥瘡治療継続率

(委員会開催日当日褥瘡治療継続率：年平均)

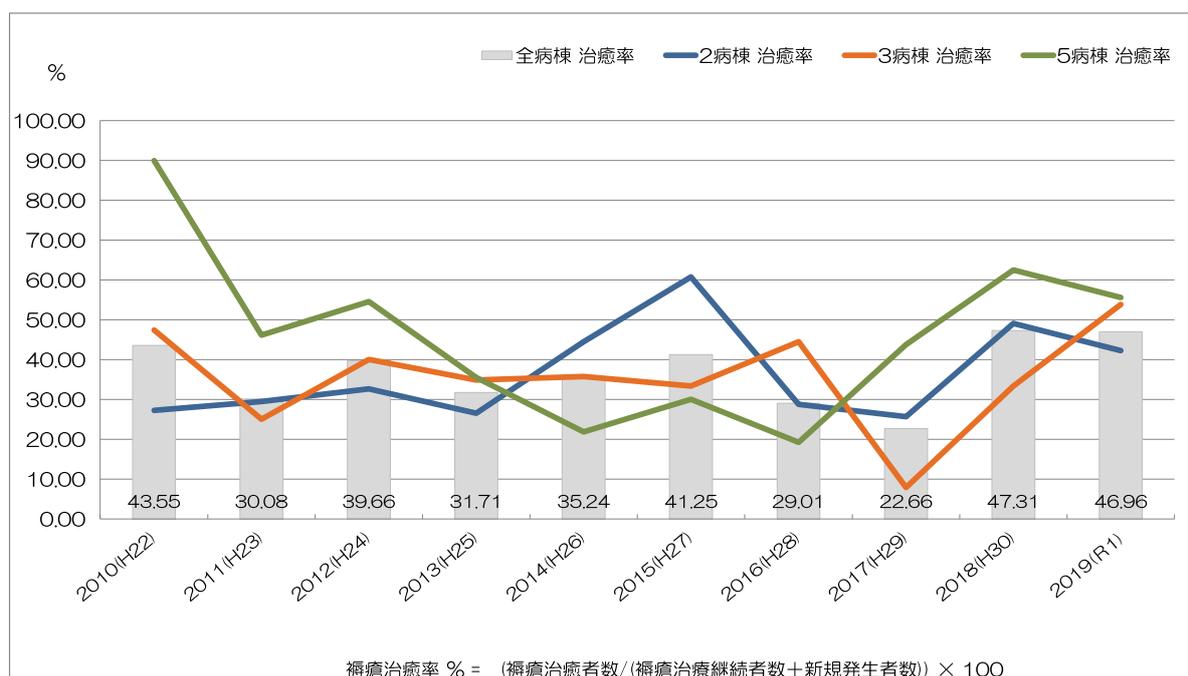
年度	2病棟			3病棟			5病棟			全病棟		
	褥瘡治療継続者数	入院患者数	治療継続率	褥瘡治療継続者数	入院患者数	治療継続率	褥瘡治療継続者数	入院患者数	治療継続率	褥瘡治療継続者数	総入院患者数	治療継続率
2010(H22)	1.75	43.83	3.99	1.42	52.58	2.69	0.25	54.33	0.46	3.42	150.75	2.27
2011(H23)	4.33	44.08	9.83	2.00	52.75	3.79	0.50	54.08	0.92	6.83	150.92	4.53
2012(H24)	2.67	43.08	6.19	2.33	52.33	4.46	0.75	53.58	1.40	5.75	149.00	3.86
2013(H25)	3.08	43.75	7.05	2.08	52.83	3.94	1.42	52.58	2.69	6.58	149.17	4.41
2014(H26)	2.00	44.17	4.53	1.67	52.50	3.17	1.75	48.42	3.61	5.42	145.08	3.73
2015(H27)	1.00	43.67	2.29	0.42	51.58	0.81	2.42	49.67	4.87	3.83	144.92	2.65
2016(H28)	4.83	40.92	11.81	0.92	50.17	1.83	1.58	48.67	3.25	7.33	139.75	5.25
2017(H29)	4.17	43.00	9.69	2.42	51.58	4.68	0.83	49.92	1.67	7.42	144.50	5.13
2018(H30)	3.00	41.17	7.29	1.58	52.00	3.04	0.75	48.83	1.54	5.33	142.00	3.76
2019(R1)	3.83	42.42	9.04	1.08	50.75	2.13	0.67	53.67	1.24	5.58	146.83	3.80



## 褥瘡治癒率

(委員会開催日当日褥瘡治癒率：年平均)

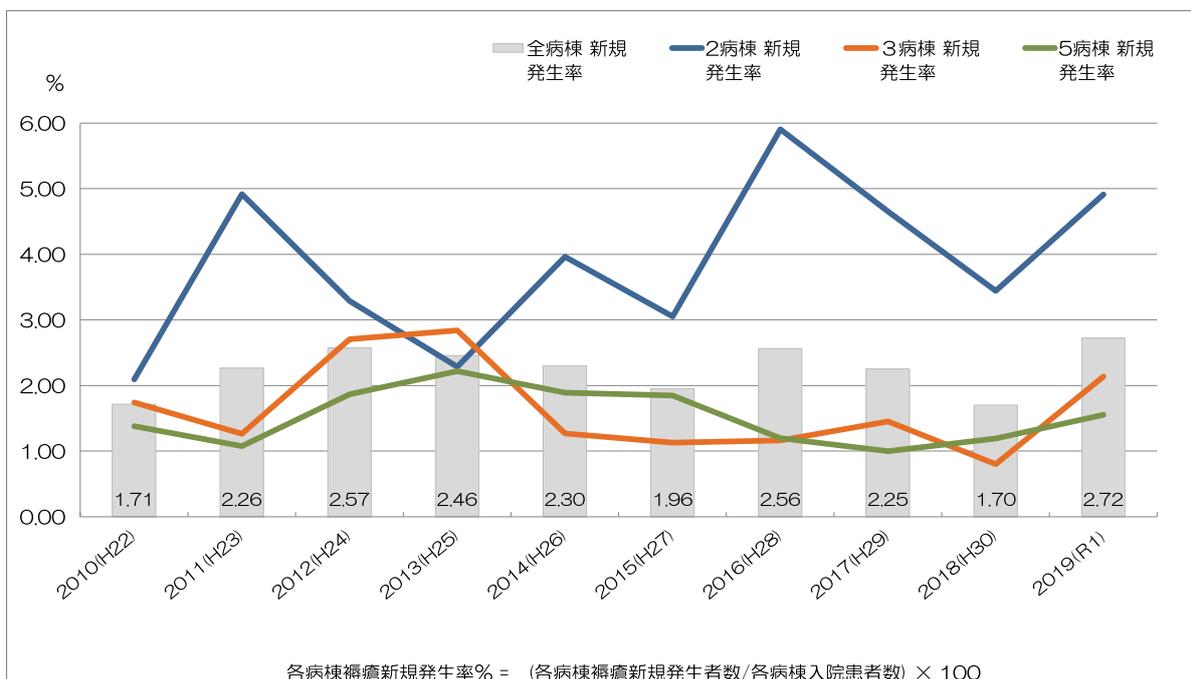
年度	2病棟			3病棟			5病棟			全病棟		
	褥瘡治癒者数	褥瘡治療継続者数+新規発生者数	治癒率									
2010(H22)	0.75	2.75	27.27	0.75	1.58	47.37	0.75	0.83	90.00	2.25	5.17	43.55
2011(H23)	1.92	6.50	29.49	0.67	2.67	25.00	0.50	1.08	46.15	3.08	10.25	30.08
2012(H24)	1.33	4.08	32.65	1.50	3.75	40.00	1.00	1.83	54.55	3.83	9.67	39.66
2013(H25)	1.08	4.08	26.53	1.25	3.58	34.88	0.92	2.58	35.48	3.25	10.25	31.71
2014(H26)	1.67	3.75	44.44	0.83	2.33	35.71	0.58	2.67	21.88	3.08	8.75	35.24
2015(H27)	1.42	2.33	60.71	0.33	1.00	33.33	1.00	3.33	30.00	2.75	6.67	41.25
2016(H28)	2.08	7.25	28.74	0.67	1.50	44.44	0.42	2.17	19.23	3.17	10.92	29.01
2017(H29)	1.58	6.17	25.68	0.25	3.17	7.89	0.58	1.33	43.75	2.42	10.67	22.66
2018(H30)	2.17	4.42	49.06	0.67	2.00	33.33	0.83	1.33	62.50	3.67	7.75	47.31
2019(R1)	2.50	5.92	42.25	1.17	2.17	53.85	0.83	1.50	55.56	4.50	9.58	46.96



## 各病棟入院患者数に対する褥瘡新規発生率

(委員会開催日当日各病棟褥瘡新規発生率：年平均)

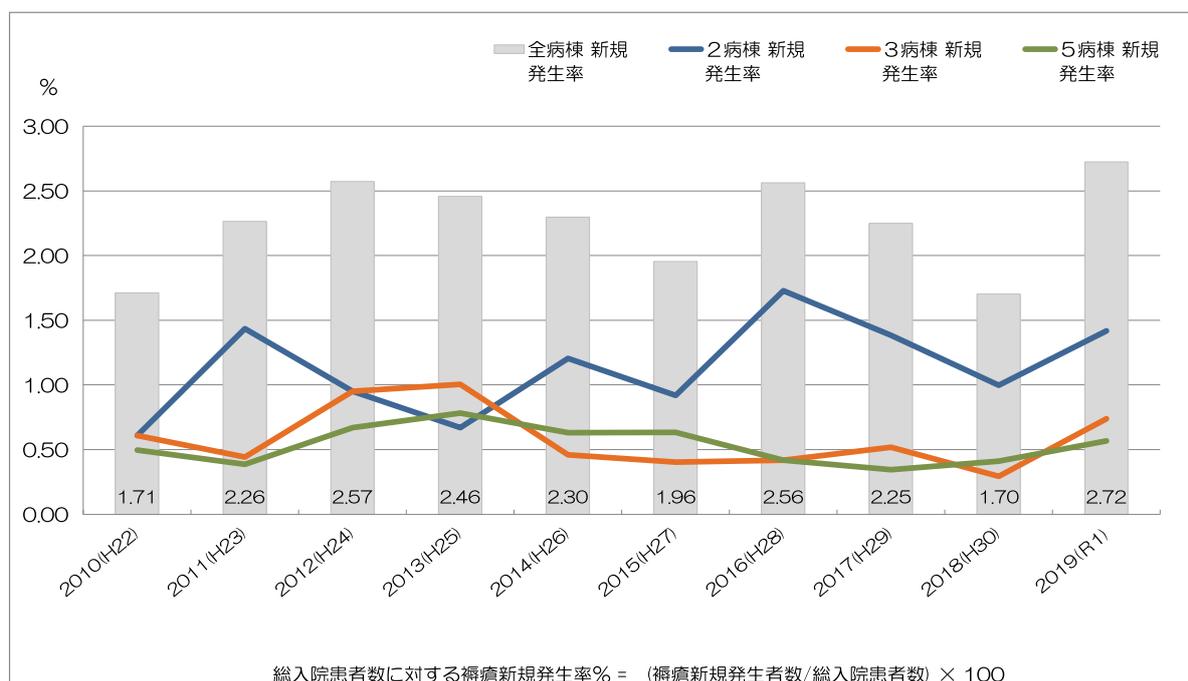
年度	2病棟			3病棟			5病棟			全病棟		
	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	総入院患者数	新規発生率
2010(H22)	0.92	43.83	2.09	0.92	52.58	1.74	0.75	54.33	1.38	2.58	150.75	1.71
2011(H23)	2.17	44.08	4.91	0.67	52.75	1.26	0.58	54.08	1.08	3.42	150.92	2.26
2012(H24)	1.42	43.08	3.29	1.42	52.33	2.71	1.00	53.58	1.87	3.83	149.00	2.57
2013(H25)	1.00	43.75	2.29	1.50	52.83	2.84	1.17	52.58	2.22	3.67	149.17	2.46
2014(H26)	1.75	44.17	3.96	0.67	52.50	1.27	0.92	48.42	1.89	3.33	145.08	2.30
2015(H27)	1.33	43.67	3.05	0.58	51.58	1.13	0.92	49.67	1.85	2.83	144.92	1.96
2016(H28)	2.42	40.92	5.91	0.58	50.17	1.16	0.58	48.67	1.20	3.58	139.75	2.56
2017(H29)	2.00	43.00	4.65	0.75	51.58	1.45	0.50	49.92	1.00	3.25	144.50	2.25
2018(H30)	1.42	41.17	3.44	0.42	52.00	0.80	0.58	48.83	1.19	2.42	142.00	1.70
2019(R1)	2.08	42.42	4.91	1.08	50.75	2.13	0.83	53.67	1.55	4.00	146.83	2.72



## 総入院患者数に対する褥瘡新規発生率

(委員会開催日当日総入院患者数に対する褥瘡新規発生率：年平均)

年度	2病棟			3病棟			5病棟			全病棟		
	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	入院患者数	新規発生率	褥瘡新規発生者数	総入院患者数	新規発生率
2010(H22)	0.92	43.83	0.61	0.92	52.58	0.61	0.75	54.33	0.50	2.58	150.75	1.71
2011(H23)	2.17	44.08	1.44	0.67	52.75	0.44	0.58	54.08	0.39	3.42	150.92	2.26
2012(H24)	1.42	43.08	0.95	1.42	52.33	0.95	1.00	53.58	0.67	3.83	149.00	2.57
2013(H25)	1.00	43.75	0.67	1.50	52.83	1.01	1.17	52.58	0.78	3.67	149.17	2.46
2014(H26)	1.75	44.17	1.21	0.67	52.50	0.46	0.92	48.42	0.63	3.33	145.08	2.30
2015(H27)	1.33	43.67	0.92	0.58	51.58	0.40	0.92	49.67	0.63	2.83	144.92	1.96
2016(H28)	2.42	40.92	1.73	0.58	50.17	0.42	0.58	48.67	0.42	3.58	139.75	2.56
2017(H29)	2.00	43.00	1.38	0.75	51.58	0.52	0.50	49.92	0.35	3.25	144.50	2.25
2018(H30)	1.42	41.17	1.00	0.42	52.00	0.29	0.58	48.83	0.41	2.42	142.00	1.70
2019(R1)	2.08	42.42	1.42	1.08	50.75	0.74	0.83	53.67	0.57	4.00	146.83	2.72



## 栄養課

### 1) NST(栄養サポートチーム)の活動状況

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催数		4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	49
対象者 人数	2病棟	6	8	5	7	4	3	5	3	8	4	1	1	55
	3病棟	3	4	6	9	17	11	15	19	12	14	11	8	129
	5病棟	9	10	11	9	12	12	7	9	11	12	6	8	116
小計		18	22	22	25	33	26	27	31	31	30	18	17	300
ラウンド数		11	10	15	15	17	10	16	17	14	14	7	8	154
コンサルテーション		7	6	9	8	6	11	9	16	4	4	8	4	92
合計		25	28	31	33	39	37	36	47	35	34	26	21	392

### 2019年度NST新規対象者依頼内容

2019年度	2病棟	3病棟	5病棟	合計
SGA「B・C」評価	7	24	24	55
主治医からの依頼	0	1	0	1
栄養計画	14	27	16	57
食種の検討	1	7	1	9
摂取量の不足	1	3	3	7
体重管理	7	4	8	19
褥瘡に対し栄養計画の検討	1	1	0	2
定期病状カンファレンス	0	1	0	1
嚥下廻診	3	0	0	3
入院時食事評価書	0	0	0	0
合計	34	68	52	154

### 2019年度NST勉強会

- 2019/5/17 (金) キリン オルニチン配合 オルニュートについて
- 2019/6/28 (金) スマイルケア食の紹介と情報提供
- 2019/7/12 (金) てんかんの食事療法について
- 2019/7/19 (金) 意識障害の病態と原因口
- 2019/11/1 (金) 栄養投与ルートについて
- 2020/1/10 (金) 人工的水分・栄養補給の導入に関する意思決定プロセスのフローチャート

## 2) 栄養指導

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
加算	入院	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	外来	0	1	2	0	0	0	2	1	0	2	1	0	9
非加算	入院	1	1	1	1	2	1	0	3	0	0	0	0	10
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通所リハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科 栄養教室	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	人数	21	21	22	24	31	23	29	25	24	15	26	31	292
精神科 デイケア 栄養教室	回数	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	8
	人数	16	17	22	20	16	0	0	0	0	15	22	18	146
特定保健 指導	動機付け	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	積極的	1	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	2	9
回数合計		4	8	7	6	6	2	3	6	2	4	3	4	55
対象者人数合計		39	44	49	48	51	24	31	30	25	32	49	51	473

## 3) 栄養管理計画書作成件数

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2病棟	入院	7	8	6	9	2	3	2	2	3	4	1	1	48
	退院	5	7	5	10	5	1	3	10	2	5	4	2	59
	継続	17	12	14	10	12	9	15	3	16	9	10	10	137
小計		29	27	25	29	19	13	20	15	21	18	15	13	244
3病棟	入院	3	3	5	6	8	14	9	9	10	7	11	9	94
	退院	8	5	5	5	7	10	7	17	11	5	7	14	101
	継続	11	14	14	9	17	17	23	11	17	16	18	19	186
小計		22	22	24	20	32	41	39	37	38	28	36	42	381
5病棟	入院	8	5	10	10	5	11	11	6	8	7	7	8	96
	退院	2	8	5	9	9	9	10	18	11	5	7	7	100
	継続	14	12	14	14	14	15	17	17	18	16	20	19	190
小計		24	25	29	33	28	35	38	41	37	28	34	34	386
合計		75	74	78	82	79	89	97	93	96	74	85	89	1,011

## 4) 食数

2019年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者		11,780	12,302	12,155	12,431	12,966	12,229	13,517	12,564	12,333	12,409	12,002	12,929	149,617
職員		1,003	1,009	893	967	987	849	934	884	900	968	927	877	11,198
精神科デイケア室		328	336	359	400	369	378	410	397	462	357	343	418	4,557
通所リハビリテーション室		357	368	433	423	408	382	408	393	390	321	310	307	4,500
合計		13,468	14,015	13,840	14,221	14,730	13,838	15,269	14,238	14,085	14,055	13,582	14,531	169,872

### 5) 選択食実施回数

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
選択食実施	12	15	12	13	14	12	14	13	12	12	12	12	153

### 6) 個別対応食

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別対応食	102	79	82	101	96	106	129	120	110	121	106	120	1,272

### 7) 栄養情報提供書作成件数

2019年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養情報提供書	2	7	3	7	7	7	9	8	7	4	5	7	73

### 8) 行事食

2019/4/2	(火)	花見弁当
2019/4/17	(水)	病院開院記念献立
2019/5/5	(日)	子供の日
2019/6/6	(木)	あじさい弁当
2019/7/7	(日)	七夕カレー
2019/9/13	(金)	お月見献立
2019/9/16	(月)	敬老の日
2019/11/14	(木)	紅葉弁当
2019/12/24	(火)	クリスマス献立
2020/1/1	(水)	正月祝い折り
2020/2/3	(月)	節分
2020/2/14	(金)	バレンタイン献立
2020/3/3	(火)	桃の節句

### 9) 調査

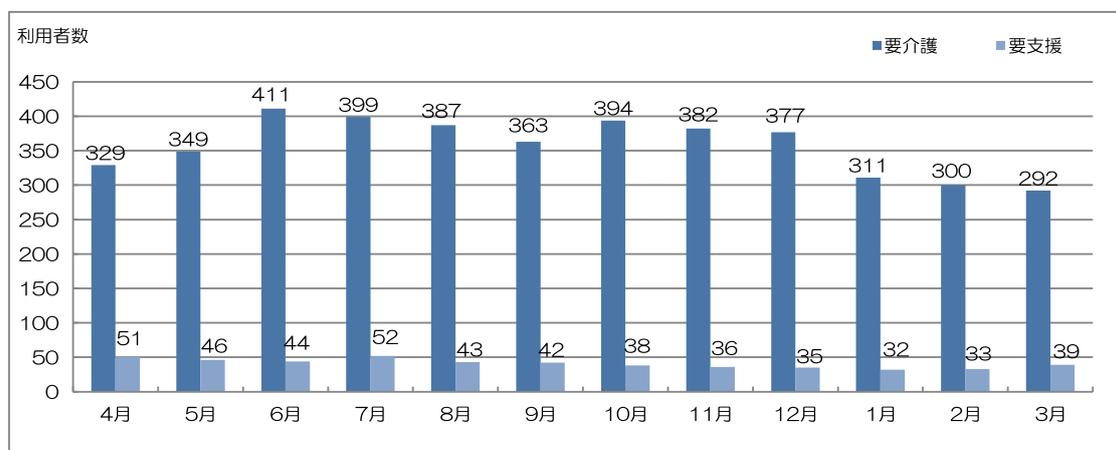
2019.6月	平成30年度新規褥瘡発生時の栄養状態調査
2019.11月	選択食についてのアンケート
2019.11月	嗜好調査

# 在宅医療支援センター

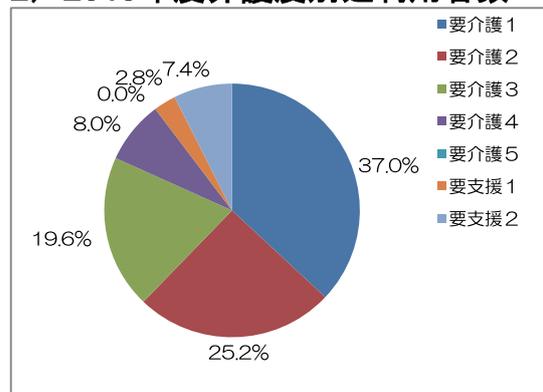
## 通所リハビリテーション室利用者数

### 1) 2019年度月別利用者数

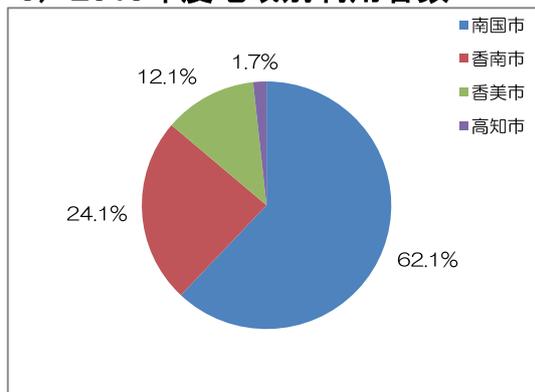
2019年度	要介護	要支援	合計
2019年 4月	329	51	380
5月	349	46	395
6月	411	44	455
7月	399	52	451
8月	387	43	430
9月	363	42	405
10月	394	38	432
11月	382	36	418
12月	377	35	412
2020年 1月	311	32	343
2月	300	33	333
3月	292	39	331
合計	4,294	491	4,785
月平均	357.8	40.9	398.8



### 2) 2019年度介護度別延利用者数

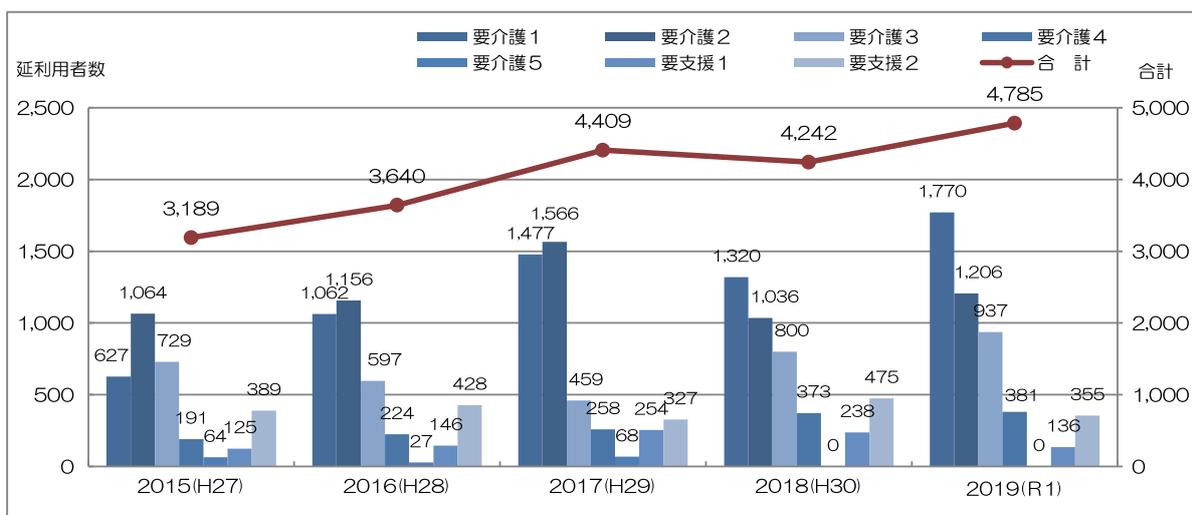


### 3) 2019年度地域別利用者数



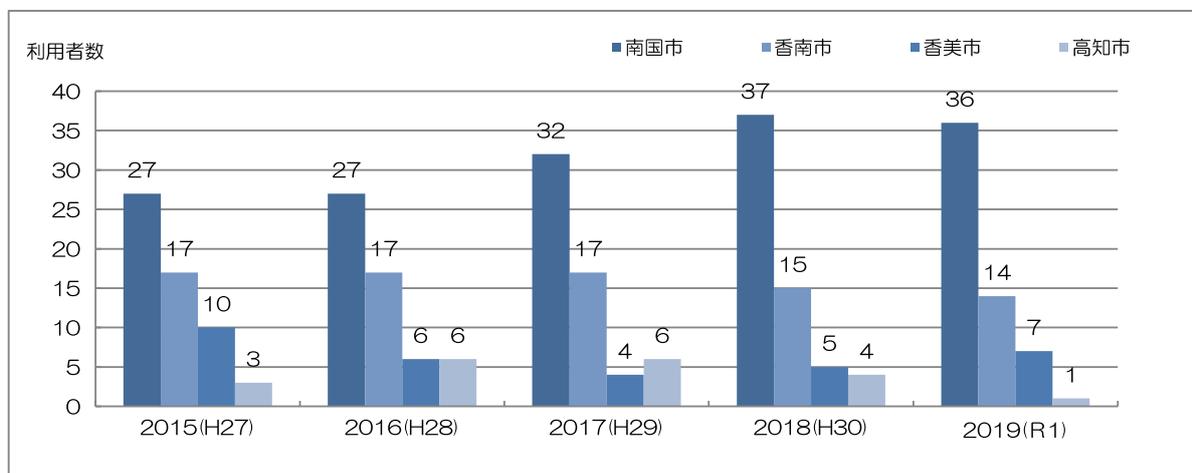
#### 4) 介護度別延利用者数の推移

年 度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援1	要支援2	合 計
2015(H27)	627	1,064	729	191	64	125	389	3,189
2016(H28)	1,062	1,156	597	224	27	146	428	3,640
2017(H29)	1,477	1,566	459	258	68	254	327	4,409
2018(H30)	1,320	1,036	800	373	0	238	475	4,242
2019(R1)	1,770	1,206	937	381	0	136	355	4,785



#### 5) 地域別利用者数の推移

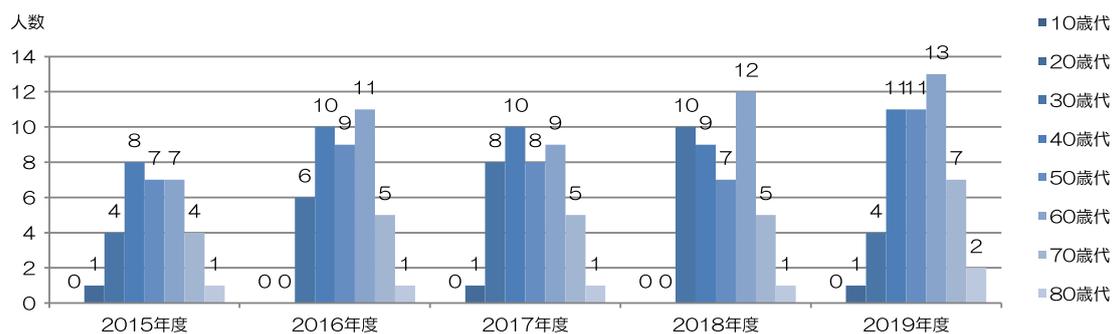
年 度	南国市	香南市	香美市	高知市	合 計
2015(H27)	27	17	10	3	57
2016(H28)	27	17	6	6	56
2017(H29)	32	17	4	6	59
2018(H30)	37	15	5	4	61
2019(R1)	36	14	7	1	58



## 精神科デイケア室利用者数

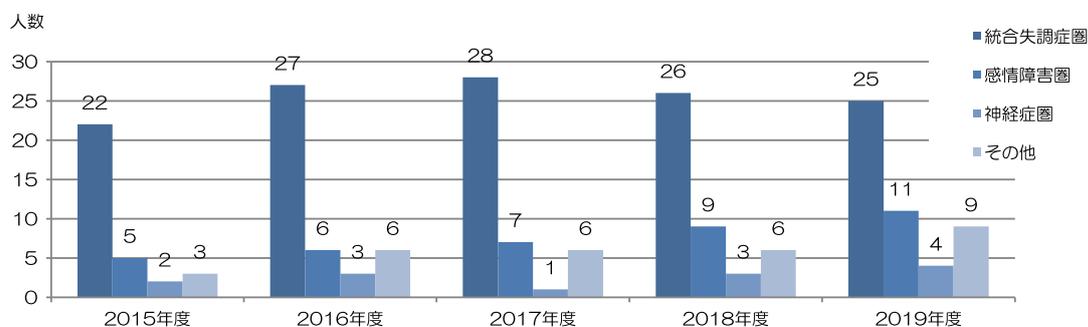
### 1) 年齢階層別登録人数

年齢	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
10歳代	0	0	0	0	0
20歳代	1	0	1	0	1
30歳代	4	6	8	10	4
40歳代	8	10	10	9	11
50歳代	7	9	8	7	11
60歳代	7	11	9	12	13
70歳代	4	5	5	5	7
80歳代	1	1	1	1	2
登録人数(計)	32	42	42	44	49



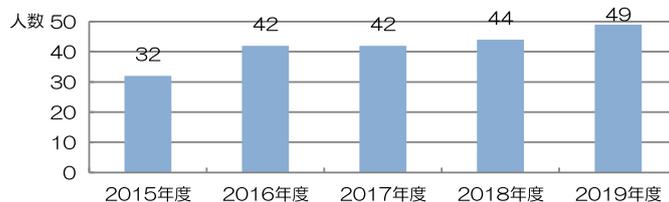
### 2) 疾患群別登録人数

疾患群	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
統合失調症圏	22	27	28	26	25
感情障害圏	5	6	7	9	11
神経症圏	2	3	1	3	4
その他	3	6	6	6	9
登録人数(計)	32	42	42	44	49



### 3) 毎年度4月1日現在数

年度	登録人数
2015年度	32
2016年度	42
2017年度	42
2018年度	44
2019年度	49



### 4) 毎年度4月平均参加人数

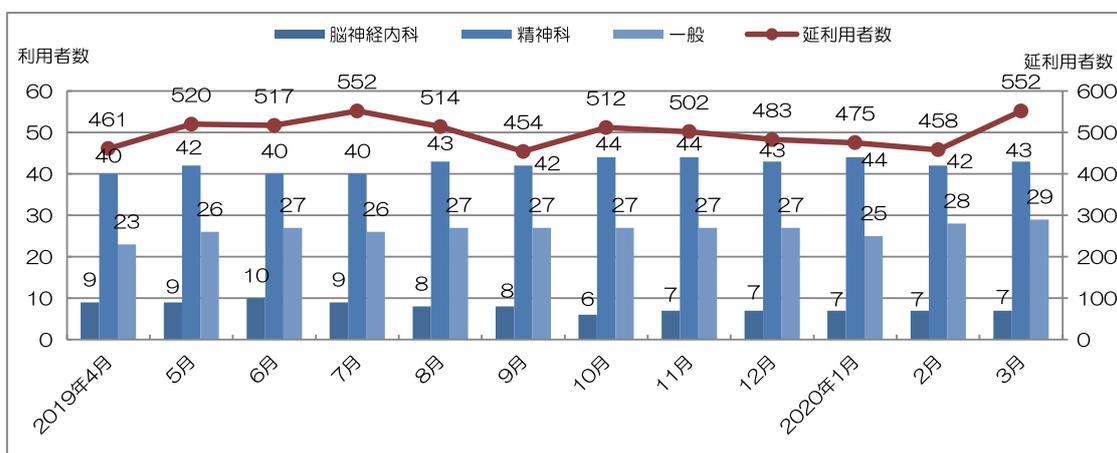
年度	登録人数
2015年度	19.3
2016年度	20.1
2017年度	21.0
2018年度	22.1
2019年度	24.7



## 訪問看護ステーションおおそね利用者数

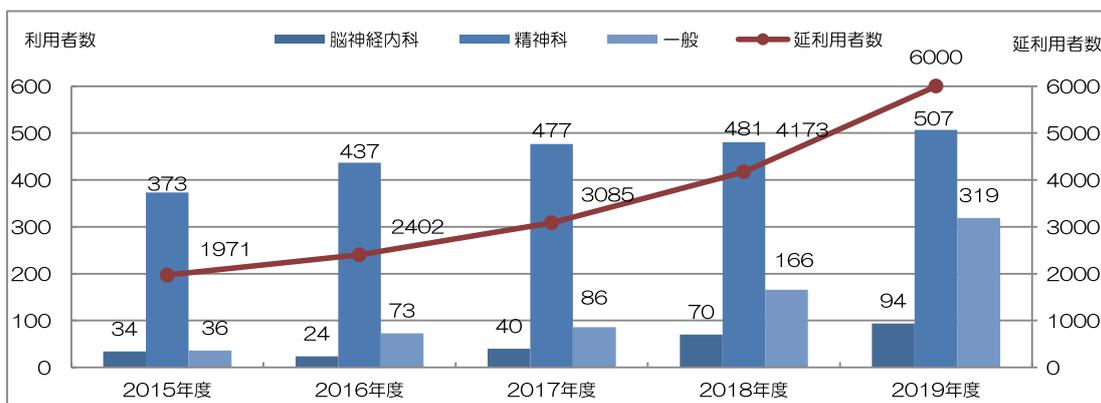
### 1) 2019年度月別利用者数

2019年度	脳神経内科	精神科	一般	合計	延利用者数
2019年4月	9	40	23	72	461
5月	9	42	26	77	520
6月	10	40	27	77	517
7月	9	40	26	75	552
8月	8	43	27	78	514
9月	8	42	27	77	454
10月	6	44	27	77	512
11月	7	44	27	78	502
12月	7	43	27	77	483
2020年1月	7	44	25	76	475
2月	7	42	28	77	458
3月	7	43	29	79	552
合計	94	507	319	920	6,000
月平均	7.83	42.25	26.58	76.67	500.00



### 2) 診療科別利用者数の推移

年度	脳神経内科	精神科	一般	合計	延利用者数
2015年度	34	373	36	443	1971
2016年度	24	437	73	534	2402
2017年度	40	477	86	603	3085
2018年度	70	481	166	717	4173
2019年度	94	507	319	920	6000



### 3) 2019年度訪問看護統計（指示書）

医療機関名	所在地	医療保険			介護保険			発行 件数
		男性	女性	計	男性	女性	計	
医療法人つくし会 南国病院	高知県南国市	25	25	50	4	6	10	60
高知大学医学部附属病院	〃 〃	4	7	11	3	2	5	16
高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院	〃 〃		1	1	4	2	6	7
医療法人地塩会 南国中央病院	〃 〃			0		1	1	1
医療法人清香会 北村病院	〃 〃			0	2	1	3	3
医療法人藤原会 藤原病院	〃 〃			0	1		1	1
医療法人慈光会 岡豊病院	〃 〃	1		1			0	1
医療法人若草会 高田内科	〃 〃			0	1	1	2	2
南国いのうえクリニック	〃 〃			0		2	2	2
医療法人涼風会 川本内科クリニック	〃 〃			0		1	1	1
医療法人清流会 山本循環器内科・眼科	〃 〃			0		1	1	1
医療法人清水会 領石蛸が丘クリニック	〃 〃			0		2	2	2
たかはし内科小児科	〃 〃			0	1		1	1
小栗医院	〃 〃			0		1	1	1
高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	〃 高知市			0		1	1	1
社会医療法人仁生会 細木病院	〃 〃		1	1			0	1
医療法人尚腎会 高知高須病院	〃 〃			0		1	1	1
医療法人おくら会 藤戸病院	〃 〃		1	1			0	1
医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル	〃 〃		1	1			0	1
医療法人共生会 下司病院	〃 〃			0	1		1	1
医療法人怨泉会 内田脳神経外科	〃 〃			0		1	1	1
医療法人真田会 さなだクリニック	〃 〃			0		1	1	1
医療法人怨泉会 リハビリテーション病院すこやかな社	〃 〃			0	1		1	1
医療法人孝仁会 杉本整形外科	〃 〃			0		1	1	1
医療法人財団千葉健愛会 あおぞら診療所高知潮江	〃 〃			0		1	1	1
医療法人公世会 野市中央病院	〃 香南市			0		3	3	3
医療法人久武会 もえぎクリニック	〃 〃			0	1		1	1
鈴木内科	〃 〃			0		1	1	1
医療法人同仁会 同仁病院	〃 香美市			0	1		1	1
さくら香美クリニック	〃 〃			0		1	1	1
村上内科循環器科	〃 〃			0		1	1	1
高知県立あき総合病院	〃 安芸市	1		1			0	1
石川記念病院	〃 吾川郡		1	1			0	1
合 計		31	37	68	20	32	52	120

## 教 育

### 2019 年度 実習受け入れ状況

#### ◎高知大学医学部医学科地域医療実習をお引き受けして

当院は平成 18 年度より高知大学医学部医学科 5 年生の地域医療実習をお引き受けしています。当院の専門性から脳神経内科実習、精神科実習、内科実習として、令和元年度も各 3 日間、実習生を受け入れました。主として外来診療の見学と病棟回診における診察技術の学習を行い、病院リハビリ、通所リハビリ、精神科デイケアの見学・参加、NST や褥瘡回診への参加も含まれます。当院では、豊富な症例に対する診療時間の配慮、家族からの情報収集と家族への配慮、地域の臨床現場における common disease と rare disease の認識、重症神経難病に対する緩和ケア、長期療養患者の QOL 向上に向けた様々な支援、基本的なカウンセリングの技術、チーム医療の中での医師の役割、地域の医療・介護・福祉資源利用についての調整・支援などを学ぶことができます。特に当院が大切にしている多職種協働やチーム医療の重要性、メディカルスタッフから学ぶことの大きさ、医師のリーダーシップがどれだけの影響力を持っているのかを学んでいただければ幸いです。大学病院との連携が強く、専門病院とかかりつけ医の二つの側面を持つ当院において、当院での地域医療実習が少しでも学生教育のお役に立てるのなら幸いです。当院で実習を受けた私の母校の医学生が卒業後県内に定着し、将来地域医療の現場で共に仕事ができることをいつも楽しみにしております。

理事長 中澤 宏之

学校名	学科	研修内容	学年	期間	受入期間	人数
高知大学医学部	医学科	脳神経内科	5	3 日間	2019.7.17～7.19	1
高知大学医学部	医学科	脳神経内科	5	3 日間	2019.12.11～12.13	1
高知大学医学部	医学科	精神科	5	3 日間	2020.2.5～2.7	1
高知大学医学部	医学科	内科	5	3 日間	2020.3.11～3.13	1

#### ◎高知県健康政策部健康対策課主催 高知県神経難病医療従事者研修事業について

高知県より委託を受けて神経難病医療従事者研修を始め 13 年になります。この研修事業は一般協力病院・診療所に勤務する看護職員が、神経難病患者への受け入れ環境の向上を図る事、そして看護師間の情報交換等による連携の強化により看護のネットワーク化につなげることを目的としています。研修内容は「講義 神経難病医療について」「神経難病看護」「人工呼吸器装着等医療依存の高い神経難病患者の日常生活援助の実際」「呼吸管理の実際」「退院指導計画の進め方と在宅療養の継続看護」等となっています。

平成 25 年度より研修前アンケートを実施しながら研修内容の見直しを行ってきました。研修者のニーズは神経難病患者の看護だけではなく、リハビリテーションや栄養管理等の多岐にわたっており、今更ながらチーム医療の重要性を実感させられています。平成 29 年度からは医師による講義に加え、日本難病看護学会認定・難病看護師を取得した当院の看護師による難病看護、疾患についての講義も行っています。

今回も参加者より「臨床工学技士の人工呼吸器の説明が丁寧で理解しやすかった」「人工呼吸器の入浴介助の実際を見学し感動した」「ポジショニングクッションの充実とその必要性を学んだ」「温かい研修を受けることが出来た」と好意的なご意見を頂く事ができました。

受け入れ側の私たちにとっても、日頃の業務、ケアについて見直す良い機会となっています。この研修の受け入れを継続する事で、他施設との情報交換、また連携強化を図ると共に、当院の看護の質向上、個々のスキルアップに繋げていけるよう努力して行きます。

### 3 病棟看護師長 井土 芳恵

医療機関名・施設名	職種	期間	受入期間	人数
医療法人高田会 高知記念病院	看護師	2 日間	2019.10.7～10.8	1
医療法人巧会 つつい脳神経外科	准看護師	〃	〃	1
医療法人慈恵会 中村病院	准看護師	〃	〃	1
こうち看護協会 訪問看護ステーション	看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション 海の里	看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション かがみ川	看護師	〃	〃	1
医療法人三和会 国吉病院	看護師	〃	2019.11.11～11.12	1
医療法人公世会 野市中央病院	看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション おち	看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション かがみ川	准看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション <small>ここあ</small> 心愛	看護師	〃	〃	1
訪問看護ステーション たかす	看護師	〃	〃	1

### ◎高知県立大学看護学部臨床実習 在宅看護実習受け入れについて

高知県立大学看護学部の実習受け入れを始めて 5 年目となりました。在宅看護実習は、在宅で生活する在宅療養者とその家族を対象とし、健康問題を持ちながらもその人らしく、日常生活を過ごすことができるようケアマネジメントを行い、サービスやケアを調整する能力を養うことを目的としています。その実習においては、学んできた理論をあますことなく活用されています。「生活」の中にある看護、信頼関係の構築の大切さを、身体的、精神的、経済的課題を抱えた利用者を支援している多職

種連携の重要性についても理解を深めてもらえたと感じています。毎年実習生を受けることで、自分達の看護についての振り返りと、新たな視点や気づきについての検討をする良い機会となっています。訪問看護の質の向上、「訪問看護ステーションおおそね」の活性のためにも今後も実習生を受け入れていきたいと思っています。

訪問看護ステーションおおそね管理者 近森 真由美

学校名	学科	研修内容	学年	期間	受入期間	人数
高知県立大学	看護学部看護学科	在宅看護	4	19日	2019.9.17～11.18	8

### ◎高知中央高等学校看護学科専攻科課程「精神看護学」臨地実習について

精神科病棟では、ワーク・ライク・バランス推進活動の一環である若年層スタッフの人材確保と定着を目標とするとともに、学生を受け入れることで看護の質向上に向けたキャリアアップも目的に、平成28年より実習を受け入れています。

実習指導と精神科看護に自信を持つため毎年1名が「保健師助産師看護師実習指導者講習会」に参加させていただいております。本年度で5名の実習指導者が研修終了しました。

臨地実習の目的は実習の場でしか体験できないことを経験する場です。学校で学んできた既習学習と結びつけ、看護の展開ができるようサポートし、少しでも精神科に興味を持ってもらえるよう指導にあたっています。実習生を受け入れることで看護師個々の看護の学びと成長に繋がり、看護の質の向上に繋がります。結果、患者さんへの看護サービスに繋がります。今後も実習指導者が増えるので、研修での学びをスタッフにフィードバックし自信をもって指導・対応が出来る精神科病棟にしていきたいと思っています

5病棟看護主任 小松 匡輔

学校名	学科	学年	期間	受入期間	人数
高知中央高等学校	看護学科専攻科	2	30日	2019.7.3～7.31 2019.9.13～9.30	12

### ◎公益社団法人高知県看護協会主催 ふれあい看護体験について

高知県からの委託により、ナースセンター事業「看護の心普及事業」の一環として平成6年度より「ふれあい看護体験」が実施されています。令和元年度は、37高等学校から464名が62の医療機関及び施設で看護体験をされました。

当院においては、「看護師の仕事に興味があるから」「体験をして将来に繋がりたい」「看護の仕

事を体験し看護師の仕事の大切さを感じたい」と言う女子高校生5名を受け入れました。当院では、毎年白衣を準備して迎え「一日看護師さん」の雰囲気を感じて貰うことから「ふれあい看護体験」をスタートさせています。

午前中は、神経難病病棟で、血圧測定やとろみ茶、固茶の飲み比べの実施や「患者さん体験」と題し、実際にクッションなどを使用し安楽な体位への挑戦も行いました。午後からは、精神科作業療法に参加し患者さん達と一緒に「フルーツパフェ」作りを楽しみました。

体験後「看護職になりたい気持ちが強くなった」「看護職の仕事はやりがいのある素晴らしい仕事と思った」「病院の方々が明るくて笑顔いっぱい素敵で病院だなと思いました」などと嬉しい感想を寄せて頂きました。参加してくれた5人の高校生が看護職の道へ進んでくれる事を願います。担当してくれたナース達に感謝しつつ、令和元年度のふれあい看護体験は無事終わりました。

看護部長 佐光 真由美

学校名	学年	期間	受入期間	人数
高知県立高知追手前高等学校	3	1日間	2019.8.7	1
高知県立岡豊高等学校	3	〃	〃	2
高知県立岡豊高等学校	2	〃	〃	1
高知県立高知丸の内高等学校	2	〃	〃	1

### ◎理学療法での実習生の受け入れについて

本年度も高知県の高知リハビリテーション学院と愛媛県の河原医療大学の2校から実習生を7名受け入れさせて頂きました。

履修学年に応じて期間は1週間から9週間と様々ですが、受け入れにあたり、患者様・ご家族様をはじめ、他部署のスタッフのご協力を頂き、深く感謝しております。

当院の実習は、他施設ではあまりみられない神経難病をはじめ、内科、精神科と多岐にわたり、それぞれの疾患の理解を深める貴重な機会になっています。また、知識、技術面だけでなく医療人として成長し、よりよい理学療法士になれるようにスタッフ一同で後進育成に取り組んでいきたいと思ます。また指導者自身も、教えることで、気づきや学ぶことも多々有り、個々の自己研鑽にも努めていきたいと思ます。

診療支援部リハビリテーション課理学療法室  
理学療法室室長 中川 圭子

### ◎理学療法臨床実習

学校名	学科	学年	期間	受入期間	人数
河原医療大学校	理学療法学科	4	8週間	2019.4.22～6.14	1
河原医療大学校	理学療法学科	4	8週間	2019.7.1～9.24	1
高知リハビリテーション学院	理学療法学科	4	9週間	2019.5.13～7.13	1

### ◎理学療法評価・見学実習

学校名	学科	学年	期間	受入期間	人数
河原医療大学校	理学療法学科	2	2週間	2020.2.17～2.29	1
高知リハビリテーション学院	理学療法学科	3	3週間	2020.1.14～1.31	1
高知リハビリテーション学院	理学療法学科	2	1週間	2019.8.19～8.24	1
高知リハビリテーション学院	理学療法学科	2	1週間	2019.8.26～8.31	1

### ◎作業療法での実習生の受け入れについて

本年度、作業療法部門では、県内作業療法士養成校2校（高知リハビリテーション専門職大学・土佐リハビリテーションカレッジ）より、精神障害領域（デイケア部門含む）において実習を受け入れました。

臨床実習は、実習生が作業療法の基本的技術や管理運営に必要な知識・技術を習うことであり、習った技能を自身の技能として実践できるようになるための体験型の学習過程です。この学習過程によって、学生は自己の能力で、対象者の作業療法の基本的な実践ができるようになります。そのため、実習中は精神科・精神疾患について理解を深め、入院中から退院後の地域生活をどのように送っていくか、退院後再発せず地域で生活していくためにはどうすべきか、就学や就労をするためには何が必要か等、患者さんと共に考え、患者さんの意思を尊重しながらどう支援していくかを考えてもらっています。今後も実習指導を通じ、後輩育成はもとより、私たち作業療法士として成長する貴重な機会となっていることを認識し、積極的に教育へ携わり、共に成長・発展したいと考えています。

診療支援部リハビリテーション課作業療法室  
作業療法士 今城 恵理

### ◎精神科デイケア臨床実習

学校名	学科	学年	期間	受入期間	人数
高知リハビリテーション学院	作業療法学科	4	9週間	2019.5.9～7.10	1

## 2019年度 院内学術研修会

	開催日	内 容	講師・発表者	参加者
1	4/11 (木)	医療安全研修会① 個人情報保護	事務部長 中川 博文	53名 アンケート 提出者53名
2	4/13 (土)	医療法人つくし会南国病院開院50周年記念講演会 講演1 これからの精神科医療と地域連携 講演2 これからの脳神経内科	講演1 高知大学医学部 神経科精神科学教室 教授 数井 裕光 先生 講演2 高知大学医学部 脳神経内科学教室 教授 古谷 博和 先生	来賓者多数の ため、スタッ フのみ聴講
3	5/7 (火)	就業規則について	事務部長 中川 博文	55名 アンケート 提出者53名
4	5/14 (木) ・ 5/23 (木)	医療安全研修会② eラーニング 医療安全の基本を知る② 第1回 信頼関係のヒントーかけがえのないひとー 第2回 医療安全の最近の話題：Second Victim	eラーニング	185名 アンケート 提出者139名
5	6/4 (火) ・ 6/20 (木)	医療安全研修会③ eラーニング 医療安全の基本を知る② 第3回 医療安全の最近の話題：レジリエンス	eラーニング	183名 アンケート 提出者124名
6	6/12 (水)	行動制限最小化研修会① 「入院に至るまでの行動制限を中心に」	精神科部長 玉元 徹	54名 アンケート 提出者52名
7	8/28 (水)	褥瘡対策研修会 医療・福祉機器の『ニガテ』意識をなくすとケアはこう変わる！ ●褥瘡（床ずれ）対策 ●誤嚥性肺炎対策 ●転倒・転落対策 メディカルケアサポート勉強会	(株)モルテン 健康用品事業本部 西日本ブロック 広島オフィス 係長 堀内 寿一郎氏	40名 アンケート 提出者39名
8	9/18 (水)	医療倫理研修会 eラーニング 病院で働く職員に向けた臨床倫理 第1回 臨床倫理総論 第4回 人生の最終段階における医療の倫理	eラーニング	43名 アンケート 提出者42名
9	10/8 (火) ・ 10/16 (水)	感染対策研修会① eラーニング 感染対策の具体 第1回 針刺しおよび血液・体液曝露防止 第2回 ワクチンについて	eラーニング	177名 アンケート 提出者95名

	開催日	内 容	講師・発表者	参加者
10	10/17 (木)	予演会 第15回 四国摂食・嚥下障害研究会 「窒息を経験したパーキンソン病患者の食事支援」 ～患者の希望に添った食形態へのチャレンジ～	3病棟看護師 森木 博子	25名  アンケート 提出者22名
11	10/19 (土)	《 第6回 地域オープンセミナー 》 「かかりつけ医として、南国病院ができること」 かかりつけ医はいますか？  講演1 意外と多い精神科でお役に立てること ～あがり症・治らない頭痛や腰痛、 夜間のふくらはぎの痛みなど～  講演2 それでいいのあなたの食生活 ～病は口からと言うけれど～	講演1 精神科部長 玉元 徹  講演2 副院長 内科部長 速瀬 啓純	来賓者に備 え、スタッフ のみ聴講
12	11/5 (火)	予演会 第7回 日本難病医療ネットワーク学会学術集会 「神経難病患者の胃瘻造設に関する意思決定支援」 ～歯状核赤核ルイ体萎縮症患者の症例から～  第43回 中国・四国精神保健学会 「苦情ゼロを目指した業務改善」 ～よりよい入院生活を送るために～	2病棟看護師 山崎 美樹  5病棟看護師 田上 健太	42名  アンケート 提出者40名
13	11/12 (火) ・ 11/20 (水)	感染対策研修会② eラーニング 感染対策の具体 第3回 医療感染性廃棄物について 第4回 清掃・リネン・環境の管理について	eラーニング	177  アンケート 提出者90名
14	1/9 (木)	医療安全研修会④ 医薬品安全管理 向精神薬について	薬剤課長 椎葉 貴行	58名  アンケート 提出者58名
15	1/22 (水)	行動制限最小化研修会② 入院中の行動制限 ～精神科病棟と非精神科病棟の違いも含めて～	精神科部長 玉元 徹	33名  アンケート 提出者30名
16	2/18 (火)	医療安全研修会⑤ 医療ガス講習会 医療ガス設備 96通知安全管理について	四国アセチレン工業(株) 高知営業所 所長 榎田正利氏	64名  アンケート 提出者61名
17	3/10 (火)	第9回 看護部チーム会活動の振り返り	看護部チーム会	25名  アンケート 提出者19名

## 2019年度 院内看護部研修会

	開催日	内 容	講師・発表者	参加者
1	4/5 (金)	おむつの選び方と正しい使い方	ユニ・チャーム株式会社 営業本部 プロケア営業 四国支店 四国リージョン ライフリーケアアドバイザー 長崎史美氏	21名  アンケート 提出者20名
2	4/16 (火)	移乗介助 姿勢と動きⅢ ノーリフトと腰痛予防 ベッド上げ  姿勢と動きⅣ ノーリフトと腰痛予防2 移乗のサポート	理学療法室 理学療法士 池上 司	18名  アンケート 提出者17名
3	5/1 (水)	神経難病の基礎 卒後1年～5年は参加必須	3病棟看護主任 日本難病看護学会認定・難病看護師 豊永 広恵	29名  アンケート 提出者28名
4	5/1 (水)	採血手技(実技) 卒後1年対象	医療安全対策室 医療安全管理者 看護教育師長 大黒 千明	3名  アンケート 提出者3名
5	5/24 (金)	人工呼吸器研修会 ～基礎と応用とときどきトラブル～ 卒後1年対象	臨床工学室 医療機器安全管理責任者 臨床工学技士 森本 直樹	3名  アンケート 提出者3
6	6/5 (水)	エンゼルケア(死後の処置) 卒後1年～5年は参加必須	株式会社ヒュー・メックス 営業部 課長 新宮 洋一氏	21名  アンケート 提出者21名
7	6/19 (水)	接遇について	看護部長 佐光 真由美	33名  アンケート 提出者33名
8	7/3 (水)	eラーニング 看護補助者対象講義 第9回 看護補助者業務における医療安全(1) 第10回 看護補助者業務における医療安全(2)	eラーニング	16名  アンケート 提出者16名
9	7/10 (水)	フィジカルアセスメント 意識ABCアプローチ	高知赤十字病院 救急看護認定看護師 寺尾 浩氏	28名  アンケート 提出者28名
10	8/21 (水)	吸引・導尿の手技(実技) 卒後1年～5年対象	医療安全対策室 医療安全管理者 看護教育師長 大黒 千明	4名  アンケート 提出者4名
11	8/22 (木)	eラーニング 看護補助者対象講義 第11回 看護補助者業務における感染対策(1) 第12回 看護補助者業務における感染対策(2) 第13回 看護補助者業務における労働安全衛生	eラーニング	8名  アンケート 提出者8名

	開催日	内 容	講師・発表者	参加者
12	9/4 (水)	不随運動って？	3病棟看護主任 日本難病看護学会認定・難病看護師 豊永 広恵	31名 アンケート 提出者31名
13	9/4 (水)	eラーニング 認知症看護 講義1 認知症とは何か：病態、治療について 第1回 認知症とは 第2回 認知機能障害が日常生活に及ぼす影響 第3回 主な原因疾患と治療	eラーニング	33名 アンケート 提出者31名
14	9/11 (水)	PowerPointの作り方	事務部長 中川 博文	18名 アンケート 提出者17名
15	10/23 (水)	新人座談会 「新人、集まれ！」 卒後1年～5年は参加必須	看護師	7名 アンケート 提出者7名
16	11/6 (水)	今更聞けない看護記録	5病棟看護主任 小松 匡輔	17名 アンケート 提出者12名
17	11/13 (水)	摂食・嚥下障害 ～嚥下造影検査を中心に～	言語聴覚療法室室長 言語聴覚士 中川 愛友	13名 アンケート 提出者12名
18	12/11 (水)	身体拘束について(実施)	5病棟スタッフ	24名 アンケート 提出者22名
19	1/15 (水)	感染対策研修 「インフルエンザ対策」	臨床検査室室長 院内感染管理者 臨床検査技師 小松 則子	25名 アンケート 提出者22名
20	1/29 (水)	「心肺蘇生法」 ～みんなで繋ごう 命のリレー～	高知赤十字病院 救急看護認定看護師 寺尾 浩氏	25名 アンケート 提出者22名
21	2/5 (木)	ICLS 急変時の対応	5病棟看護師 (ICLS受講者)	16名 アンケート 提出者12名
22	2/12 (水)	栄養管理について	栄養課長 宮地 悦美	21名 アンケート 提出者21名
23	3/4 (水)	看護技術の振り返り 卒後1年～5年は参加必須	看護部長・看護師長	6名 アンケート 提出者6名

## 第9回 看護部チーム発表会

～看護部チーム会活動の振り返り～

2020年3月10日（火）17:30～18:00

本館5階 多目的ホール

チーム名・発表者・発表内容
<p><b>教育師長 大黒 千明</b></p> <p>毎年3月に学術研修として「看護部チーム会の一年の振り返り発表会」が開催されます。本年も3月10日に開催されました。それぞれ7つチーム会が、課題や目標達成の為、一年間取り組んだ経過と成果を発表しています。本年度の各チームの主な取り組みはⅠ機器チームは院内で使用している注射針についてⅡ摂食嚥下チームは食事廻診についてⅢ記録チームは記録内容についてⅣ医療安全チームは配薬トレーについてⅤ感染チームは手指消毒についてⅥ褥瘡チームはポジショニングクッションの管理についてⅦ教育チームは研修企画についてでした。（詳細は各チームの報告をご覧ください）</p> <p>本年度はコスト削減や業務改善また患者の安全安楽に視点を置いた取り組みでした。今後も患者ファーストで安全安楽な看護を提供出来るよう、他職種との協力を得ながら活動していきたいと思えます。</p> <p>“目指せ！ワン・チーム南国病院”</p>
<p><b>I 医療機器チーム</b></p> <p><b>3病棟准看護師 永野 侃志</b></p> <p>本年度は、昨年度に発生した針刺し事故を受け、留置針や翼状針を検討しました。</p> <p>翼状針は、針刺し事故の経過を踏まえ内筒収納タイプの翼状針に変更し、新たに採血ホルダーも導入しました。変更後の針刺し事故の報告はありません。留置針はそれぞれの使い勝手もあり変更には至りませんでした。変更を検討していると聞いたメーカーからの協力があり、コストカットにつながりました。</p> <p>他にはモニター電極部の皮膚トラブル、CVカテーテルの固定テープを剥がす際のトラブルについて検討しました。</p> <p>モニター電極部の皮膚トラブルは保護膜形成剤スプレーを導入し症状軽減されています。</p> <p>CVカテーテルの固定テープについては、テープの中心に粘着物のないものに変更し、剥がす際のトラブルは解消されました。</p> <p>物品を変更しても手技が従来のものであったり間違ったりすると、事故のリスクは変わりません。正しい方法を周知していくことがリスク減への道だと思えます。</p>

## II 摂食・嚥下チーム

### 3 病棟看護師 森木 博子

摂食嚥下チームでは、昨年度に引き続き食事廻診を継続してきました。他部署からの視線で観察する事で何か気づく事があるのではないかと廻診メンバーは各病棟のチームメンバー、ST、栄養士で行いました。実際の食事の場面を見て介助しているスタッフから意見を聞くことで、摂取状況を把握することができました。

また、毎週金曜日にはNSTに参加し、個々の摂取状況の把握に努めました。把握した上で状況に応じてより安全に食事ができるためにはどのような姿勢で食べれば良いか等検討し、ポジショニングの工夫や食事介助の指導をSTの協力のもと行ってきました。食事廻診を行う事で、窒息、誤嚥性肺炎の発症を予防する事ができているのではないかと思います。

その他の活動として四国摂食・嚥下障害研究会や日本難病医療ネットワーク学会学術集会に参加、それぞれ演題発表をしてきました。参加したメンバーから報告があり、情報を共有することができました。今後も活動の参考にしていきたいと思います。

次年度も現場の意見に耳を傾けながら、食事廻診の継続と、高知県で開催される四国摂食・嚥下障害研究会での発表に向け準備していきたいと思います。

## III 記録チーム

### 外来看護主任 西野 光世

私たちは、毎月及び3ヶ月毎に記録の監査を行っています。今年度は、4つの改善を行いました。

- ① インスリン使用時の記録：点滴内にインスリンを混注する場合は、処方注射実施にチェックする。スケールや単発でインスリンを施注した場合、看護記録に残す。検温表のインスリン入力欄に、薬剤名と施注単位を入力する。
- ② 転棟時の記録：転棟が決定次第サマリーを作成し、お互いの病棟へ渡す。看護計画は終了させない。ADL 評価は前日までに行う。看護計画・評価の見直し、ADL、褥瘡評価は前月分まで済ませておく。
- ③ 患者トラブル時の記録をすることに変更し、記録は証拠物になるため実名で記載することとし、マニュアルを改正した。
- ④ レスピや酸素の開始・終了時刻の記録：処置行為と看護記録は同じ時刻にする。入力もれや未来記録にしない。

次年度も引き続き、看護記録の簡素化に向けての取り組みを行う。

#### **IV 医療安全チーム**

##### **5 病棟看護師 石谷 豪**

本年度は配薬箱を使った誤薬防止を中心に、与薬の 6R、指さし呼称、各部署の AED 設置箇所とコードブルーの周知に取り組んできました。誤薬防止を分析するためにレポートを基に話し合い、結果からよりよい改善策を見だし、新しい配薬箱の使用と与薬方法を掲示しました。現在もスタッフ全員が周知徹底できるようナースステーション内に、「指さし呼称」と「与薬の 6R」の掲示物を表示させて頂いています。指さし呼称については以前より推奨していますが、実施には個々に差があるようで今後の課題にもなっています。意識的に確認動作をとり①確認する対照を指で指す、②指さしたものを声に出す、③言った言葉を耳で聞く、を繰り返し行う事が必要です。他に AED の設置場所、緊急時の連絡方法などの確認も必要です。

来年度も指さし呼称を中心として、安全な医療と事故防止に取り組んでいきますので、引き続き皆様の御協力を宜しくお願いします。

#### **V 感染対策チーム**

##### **2 病棟看護師 津田 真優**

感染対策チームでは、前年度に引き続き、手指消毒剤の適量使用について取り組んできました。

今年度も、高知赤十字病院と連携病院との合同カンファレンスで、平成 30 年度手指衛生サーベイランスの結果と活動報告が行われました。

前年度は、参加施設において患者さん一人に対しての平均値は 3 回でした。今年度は前年度の実績から 10%増で使用回数の設定をし、手指衛生を行うべき 5 つのタイミングのポスターを各病棟に掲示したり、声掛けによる促しを行う事で、当院での患者さん一人に対しての手指消毒剤使用量の平均値は 3.6 回となり目標値に達成する事ができています。

その他、物品の消毒方法の統一を行い、各病棟で実施する事ができています。また、使用物品の見返しや、感染対策が必要な箇所についての検討を行い改善に取り組んで来ました。

現在、新型コロナウイルス拡大が懸念されています。

感染予防として手指衛生はもっとも重要です。一人一人が感染拡大防止に取り組んでいただきたいと思います。

## VI 褥瘡対策チーム

### 3 病棟看護師 山口 沙希

チームの活動として、ポジショニングクッションの管理、エアマットの増台、研修会への参加、褥瘡回診があります。

平成 30 年からポジショニングクッションのリースが導入され、管理方法が大きな課題となっていました。本年度はチーム会の日に関館一斉に個数確認するようにし、確認は助手さん、保清さんの協力も得ています。

エアマットは本年度 13 台のリースを増台しました。

チーム員は毎年、高知赤十字病院で行われる褥瘡対策研修会へ参加しています。研修を経て個々の意識が変わることでチームの機能性も上がり、褥瘡の早期発見、短期治癒ができています。また、他職種との連携もとれ、褥瘡発生件数は昨年より減りました。

今後も研修会で学んで来たことを発信し、チームをしっかりと機能させ、褥瘡の早期発見、治癒、予防に努めていきたいです。

## VII 教育チーム

### 5 病棟看護主任 小松 匡輔

今年度は、新人スタッフが多く就職してきました。そのため、新人教育の強化に重点をおき取り組み、主に実務で活用できる内容の研修会にしました。

近年の医療現場の変化により現在の看護学実習では、臨地実習での知識と技術の統合が難しくなっています。そのためシミュレーターを用いての演習が必要です。今年度は、吸引と導尿浣腸シミュレーターを購入していただきました。新人対象を除く、研修出席率の平均は 29%でした。参加者が少ないものもあり、今後、より多くの方に興味を持ってもらえるような研修会のあり方を考えていきたいと思います。

e ラーニングによる研修は、当日参加できなかったスタッフも、後日学習する事ができたり、再度学習したい場合も復習が気軽にできたりと効率化が図れるようになりました。今後も e ラーニングのみならず、実技を取り入れた研修や、外部講師を招いた研修を増やしていき、参加意欲の出る研修会を開催したいと考えています。

## 業 績

### 第 6 回 地域オープンセミナー

2019 年 10 月 19 日（土）14:00～16:00

在宅医療支援センター・センターホール

「かかりつけ医として、南国病院ができること」  
かかりつけ医はいますか？

#### 講演 1

「意外と多い精神科でお役に立てること」

～あがり症・治らない頭痛や腰痛、

夜間のふくらはぎの痛みなど～

医療法人つくし会南国病院

精神科部長 玉元 徹



#### 講演 2

「それでいいのかあなたの食生活」

～病は口からと言うけれど～

医療法人つくし会南国病院

副院長

内科部長 速瀬 啓純



学術研修委員会委員長

精神科部長 玉元 徹

令和元年 10 月 19 日に第 6 回地域オープン  
セミナーが開催されました。昨年の第 5 回から  
当院の医師がそれぞれの分野の特徴に関連し

た内容の講演をしていただいておりますが、第 5 回と同様第 6 回も聴衆の皆様方は、ほとんど 50 代以上の方ばかりのように見受けられました。正確な年代別の人数は把握していませんが、一見して年配の方が圧倒的多数とわかるような状況だったと私は認識しております。やはり土曜日の午後とはいえ、日本はまだまだ忙しい若者が多いのか、病気に関心がある若い方が少ないためなのか、私達の力不足なのか、そこは難しいところですが、テーマが地震や災害に関することや誰でもかかるインフルエンザの予防や高血圧症の対策など幅広い患者層に訴えかけるようなテーマでなかったことも要因かもしれません。私の精神科の紹介よりははるかに内科の速瀬先生のご講演の方が身近な食生活に関することがテーマでしたので、関心が集まったことと思いますが、それでも年配の人に偏っていたことは少し残念に思いました。それでもあの速瀬先生の内容をお聞きになった皆様方が、口コミで面白かったよと大勢の方々に広めていただけると、今後の地域オープンセミナーの関心が高まることと期待しております。なにしろ速瀬先生のご講演は、宇宙規模の壮大なテーマから身近な食生活のテーマへの展開があり、みなさんの心をかなり惹きつけるエンターテインメントで、私も観客として楽しませていただきました。速瀬先生にはあのような大がかりなスライド作成にもご尽力いただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

また、次回からはもう少し皆様方が関心を持っていただけるテーマを考えて、広報活動をうまくやっていくように学術委員会として努力して行こうと考えておりますので、皆様今後ともよろしく願い申し上げます。



参加者数 83 名（院外 57 名・院内 26 名）

## 2019 年度 業績

### ◎論文

- 1) 玉元徹: 寄生的な対象関係をエンアクトした境界例の治療過程  
精神分析的心理学 第 11 号 p57-62  
2 月 2020

### ◎学会発表

- 1) 森木博子、松下愛香、豊永広恵、井土芳恵、宮地悦美、吉村公比古: 窒息を経験したパーキンソン病患者の食事支援～患者の希望に添った食形態へのチャレンジ～  
第 15 回 四国摂食・嚥下障害研究会  
愛媛県立子ども療育センター  
10 月 26 日 2019
- 2) 山崎美樹、西川慎一、山脇直美、井河里佳、中澤宏之: 神経難病患者の胃瘻造設に関する意思決定支援～歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症 (DRPLA) 患者の症例～  
第 7 回 日本難病医療ネットワーク学会学術集会  
九州大学医学部百年講堂・同窓会館  
11 月 15 日 2019
- 3) 田上健太、國本美香、玉木香恵子、岡本めぐみ、小松匡輔: 苦情ゼロを目指した業務改善～よりよい入院生活を送るために～  
第 43 回 中国・四国精神保健学会  
松江エルサ 11 月 21 日 2019

### ◎講演 (専門)

- 1) 中澤宏之: 南国市での認知症の取り組みについて  
Living well with dementia in Tokushima  
徳島市 6 月 20 日 2019
- 2) 中澤宏之: 南国市における認知症の取り組みについて  
高知県認知症シンポジウム  
高知市 7 月 11 日 2019
- 3) 小松匡輔: 今さら聞けない看護記録について  
令和元年看護制度准看護師キャリアアップ研修会  
高知県看護協会 高知市  
9 月 7 日 2019
- 4) 中澤宏之: 認知症の基礎知識と事例紹介  
令和元年度第 2 回介護支援専門員中央東ブロック研修会 香美市  
11 月 22 日 2019
- 5) 山本真里: 認知症の基礎知識と事例紹介  
令和元年度第 2 回介護支援専門員中央東ブロック研修会 香美市  
11 月 22 日 2019
- 6) 山本真里: 精神障害の基本理解、医療機関との連携ポイント  
社会福祉法人高知県社会福祉協議会日常生活自立支援事業専門員研修会  
高知城ホール 2 月 27 日 2020

◎講演（一般）

- 1) 中澤宏之：パーキンソン病の診断と治療  
持田製薬株式会社社内研修会 高知市  
5月10日 2019
  
- 2) 中澤宏之：高知県の地域医療構想の現状と  
今後の方向性について  
エーザイ株式会社社内研修会 高知市  
7月29日 2019
  
- 3) 速瀬啓純：食生活と生活習慣病  
高知工業高等専門学校全職員メンタルヘル  
ス講習会  
高知工業高等専門学校図書館視聴覚室  
2月12日 2020

## 編集後記

2019年度と言えば、ほぼ令和元年度ですが、令和元年と言えば、平成元年に比べると昭和生まれの者にとっては、あつけないと言いますか、元号が変わるということに拍子抜けした感があったのではないのでしょうか？昭和が64年もあったせいか平成に変わるのは、当然のような感覚でしたが、平成の31年間は昭和中期生まれの人間にとってはあつという間だった感覚があります。

この年報も始まって10年以上になると思いますが、あつという間だったと感じました。年報が始まった頃<2010年前後>の外來患者数を見ても、グラフ上では減少傾向となっています。その後平坦な時期を経て、盛り返してきました。特に最近の外來総数の安定した増加は内科の先生が増えたことや精神科の大学病院からの派遣が増えたことが要因と考えられます。特に大学病院精神科医局の当院への御協力がめざましいことが非常に感謝すべき状況です。今後も外來患者総数は高止まりの状態が続くのではないかと期待しております。外來の新患の地域別内訳を見ても、2015年から2019年の比較では、徐々に高知市の人数が増える傾向にありますが、地域オープンセミナーやホームページによる地道な広報活動により南国病院の知名度が高まってきているのではないかと思います。外來の関連としては、訪問看護やデイケアおよび通所リハビリの利用総数も増え

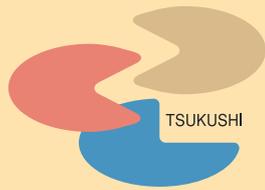
る傾向にありますので、スタッフの努力がうかがえます。

入院患者の統計に目を向けますと、2病棟3病棟の合計も増加傾向ですが、これは内科の先生が増えたことが大きいのではないのでしょうか。ただ、入院患者が増えるということは看護師さんの負担も大きくなっていると思われますので、今後看護の負担軽減のために工夫を要するものと推察致します。5病棟は残念ながら、ほぼ150前後とあまり大きな変化はありませんが、おそらく2020年度にはかなり入退院が活発化されましたので、大きく伸びていることと期待しております。また、精神科の入院では認知症の割合が増加傾向ですので、看護師さんの負担が大きいことは明らかでして、今後何らかの工夫が必要かと思われます。それでも内科の麻植啓輔先生のご尽力で精神科の合併症患者の診療に余裕が出てきて精神科看護の負担も本来ならもっと大きなものであったところをある程度緩和できていると考えられます。その代わりに私達は麻植啓輔先生にばかり負担がかからないよう気を付ける必要があります。

最後に、年報作成にいつもご尽力されている事務部の竹嶋さんと各部署の担当者に感謝申し上げます。

令和3年5月8日

年報編集委員長 玉元 徹



医療法人つくし会

# 南国病院

〒783-0004 高知県南国市大桶甲1479番地3  
TEL 088-864-3137 (代) FAX 088-863-3070  
[www.nankoku-hp.or.jp](http://www.nankoku-hp.or.jp)